

# 武雄市

デジタルトランスフォーメーション(DX)推進計画

## アクションプラン

(第1版)

令和6年(2024年)3月

武雄市

# 目次

1. アクションプランの概要	-----	3
2. 基本方針別事業		
基本方針別事業一覧	-----	4
基本方針1 市民DX～市民の暮らしを向上させるサービスの実現		
1-1 行政手続のスマート化	-----	7
1-2 デジタル福祉サービスの拡充	-----	12
1-3 公共交通と施設の利用最適化	-----	16
1-4 デジタルディバイド（格差）対策	-----	18
基本方針2 地域DX～地域課題の解決と新たな価値の創造		
2-1 デジタルインフラの整備	-----	19
2-2 デジタル技術を活用した教育の進化	-----	27
2-3 地域の産業活性化と起業支援	-----	29
3-4 災害時における支援迅速化	-----	31
基本方針3 行政DX～デジタル技術を活用した行政事務の効率化		
3-1 情報システム標準化・共通化	-----	34
3-2 業務プロセスの最適化	-----	35
3-3 AI・RPAの利用促進	-----	40
3-4 デジタル人材育成と基盤強化	-----	42
3. 用語解説	-----	43

## 1. アクションプランの概要

武雄市では、令和5年(2023年)10月に「武雄市デジタルトランスフォーメーション(DX)推進計画」(以下、DX推進計画という。)を策定しました。DX推進計画は、2020年度から進められている武雄市まち・ひと・しごと創生総合戦略(第2期総合戦略)における新たな基本目標を達成するための手段としてデジタル化の取組を推進していくものです。

また、自治体が重点的に取り組むべき事項・内容を具体化するために総務省が令和2年(2020年)12月に策定した「自治体デジタルトランスフォーメーション(DX)推進計画」に対応するとともに、平成28年(2016年)12月に公布・施行された「官民データ活用推進基本法」第9条第3項に基づき市町村の努力義務として策定する、区域における官民データ活用の推進に関する施策についての基本的な計画である「市町村官民データ活用推進計画」として位置づけています。

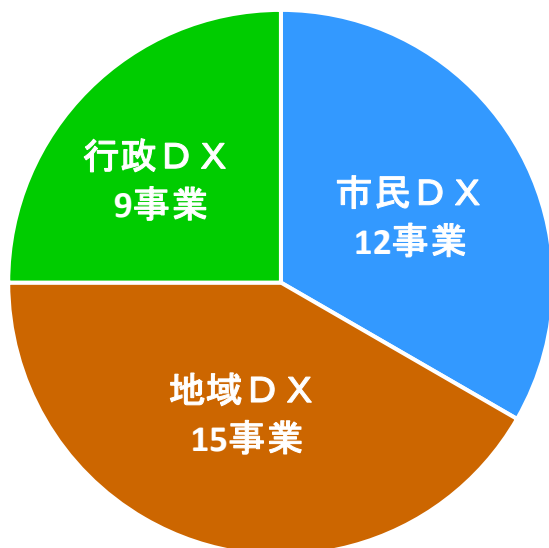
本アクションプランは、DX推進計画に基づき、具体的に実施する事業及び目標値等(KPI)を示すことで、本市のデジタル化を計画的かつ効果的に進めることを目的としています。

記載する事業については、前述の「武雄市まち・ひと・しごと創生総合戦略」を実現するための各種計画等と連携・整合性を図っていきます。

実施にあたっては、具体的な事業及び目標値等(KPI)を決定し、計画－実行－分析・評価－見直し・改善のPDCAサイクルにより進行管理をすることで、デジタル化の取組の横展開や全体最適化を図ります。

### 武雄市デジタルトランスフォーメーション(DX)推進計画

#### アクションプラン構成(36事業)



基本方針	施策	事業
市民DX	1-1: 行政手続のスマート化	5
	1-2: デジタル福祉サービスの拡充	4
	1-3: 公共交通と施設の利用最適化	2
	1-4: デジタルディバイド(格差)対策	1
地域DX	2-1: デジタルインフラの整備	8
	2-2: デジタル技術を活用した教育の進化	2
	2-3: 地域の産業活性化と起業支援	2
	2-4: 防災力向上と災害時の支援迅速化	3
行政DX	3-1: 情報システム標準化・共通化	1
	3-2: 業務プロセスの最適化	5
	3-3: AI・RPAの利用促進	2
	3-4: デジタル人材育成と基盤強化	1

No.	施策	事業名	担当部署	実施年度						
				R5	R6	R7	R8	R9		
1	1-1：行政手続のスマート化	いつでも、どこからでも各種申請・手続き等が行えるしくみ作り (行政手続き・案内等のオンライン化)	デジタル政策課	★ 本格実施						
2	1-1：行政手続のスマート化	証明書のコンビニ交付サービスの推進	市民課							
3	1-1：行政手続のスマート化	行政・利用者双方が効率的に事務が行える仕組み作り	建設課		★ 本格実施					
4	1-1：行政手続のスマート化	利用者スマート登録	こども未来課		★ 本格実施					
5	1-1：行政手続のスマート化	不在者投票請求兼宣誓書のオンライン化	選挙管理委員会事務局			★ 本格実施				
6	1-2：デジタル福祉サービスの拡充	武雄市健康づくりDX推進	健康課	★ 一部実施			★ 本格実施			
7	1-2：デジタル福祉サービスの拡充	すこやか相談(離乳食・育児)・助産師のなんでも相談	こども家庭課		★ 本格実施					
8	1-2：デジタル福祉サービスの拡充	障がいに関するオンライン相談 (どこからでも相談できるしくみ作り)	福祉課			★ 本格実施				
9	1-2：デジタル福祉サービスの拡充	放課後児童クラブにおけるICT活用の推進	こども未来課	★ 一部実施			★ 本格実施			
10	1-3：公共交通と施設の利用最適化	地域交通のDX化	企画政策課				★ 実証実験・一部実施			
11	1-3：公共交通と施設の利用最適化	公共施設予約管理支援事業	スポーツ課 生涯学習課 文化課、公園課		★ 本格実施					
12	1-4：デジタルディバイド(格差)対策	誰もがデジタルの恩恵を受けられる環境づくり	デジタル政策課	★ 本格実施						
13	2-1：デジタルインフラの整備	SNSの活用による、誰一人取り残さない情報発信の構築	秘書広報課			★ 本格実施				
14	2-1：デジタルインフラの整備	キャッシュレス納付推進事業	収納課				★ 本格実施			
15	2-1：デジタルインフラの整備	マイナンバーカード管理システム導入	市民課		★ 本格実施					
16	2-1：デジタルインフラの整備	地域経済のDX化	商工観光課		★ 本格実施					



No.	施策	事業名	担当部署	実施年度														
				R5	R6	R7	R8	R9										
33	3-2：業務プロセスの最適化	教育委員に係る各種会議の効率化	教育総務課			★ 本格実施												
34	3-3：AI・RPAの利用促進	AI-OCRやRPAを活用した作業の自動化・省力化	税務課 デジタル政策課			★ 実証実験		★ 本格実施										
35	3-3：AI・RPAの利用促進	保育所入所選考におけるAIの活用	こども未来課				★ 実証実験		★ 本格実施									
36	3-4：デジタル人材育成と基盤強化	デジタル人材の育成とセキュリティ強化	デジタル政策課	★ 本格実施														

武雄市デジタルトランスフォーメーション（DX）推進計画 アクションプラン（第1版）

No.		1	施策	1-1：行政手続のスマート化			
事業名	いつでも、どこからでも各種申請・手続き等が行えるしくみ作り (行政手続き・案内等のオンライン化)		担当課	デジタル政策課	基本方針	○	市民DX
							地域DX
							行政DX
取組の背景			事業概要				
<ul style="list-style-type: none"> <li>市民は、国が提供するぴったりサービス(27手続き)以外の申請・手続きについては、書面での提出が必要となっている。</li> <li>市民は、転入や転出、出生や死亡といったライフイベントごとに必要な手続きに関する情報を得る際、市役所に直接足を運んで質問するか、電話で問い合わせる必要がある。</li> <li>市民は、予約が必要な窓口について、電話か窓口で足を運んで予約をする必要がある。</li> </ul>			<ul style="list-style-type: none"> <li>市民が、市役所に行かなくても必要な申請・手続きが行えるしくみを作る。</li> <li>市民が、市役所に直接問い合わせなくても必要な手続きに関する情報を得ることができるしくみを作る。</li> <li>市民が、いつでも、どこからでも窓口予約が行えるしくみを作る。</li> </ul>				
実施内容							
年度	取組事項(KPI)			年次目標(KGI)			
令和1年5年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>オンライン申請等システムの調達を行い、申請・手続き、案内等のオンライン化に取り組む</li> <li>令和5年10月中旬に各種申請(29種)、手続きガイド(15種)、窓口予約(2窓口)のオンラインサービスを開始し、市民へ周知する</li> <li>年度内に申請対象を拡充し、サービスの充実化を図る</li> </ul>			<ul style="list-style-type: none"> <li>年度内にオンラインで行える申請・手続きの種類を増やす(年度内50種類以上)</li> <li>窓口又は電話による予約受付のオンライン化を行う(年度内2窓口以上)</li> <li>利用者からの評価を5点満点中3.5以上</li> </ul>			
令和2年6年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>各サービスを利用する市民や職員の意見等を集約し改善する</li> <li>申請対象の拡充及び市民への随時周知により、市民サービスの充実化を図る</li> </ul>			<ul style="list-style-type: none"> <li>オンラインで行える申請・手続きの種類を増やす(年度内70種類以上 ※累計120種類以上)</li> <li>窓口又は電話による予約受付のオンライン化を行う(年度内2窓口以上)</li> <li>各サービスの利便性向上と利用者数の増加</li> <li>利用者からの評価を5点満点中4.0以上</li> </ul>			
令和3年7年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>各サービスを利用する市民や職員の意見等を集約し改善する</li> <li>申請対象の拡充及び市民への随時周知により、市民サービスの充実化を図る</li> </ul>			<ul style="list-style-type: none"> <li>オンラインで行える申請・手続きの種類を増やす(年度内80種類以上 ※累計200種類以上)</li> <li>各サービスの利便性向上と利用者数の増加</li> <li>利用者からの評価を5点満点中4.0以上</li> </ul>			
令和4年8年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>各サービス効率向上を図るためのプロセス改善を行う</li> <li>市民向けに各サービス啓発キャンペーンを実施する</li> </ul>			<ul style="list-style-type: none"> <li>キャンペーンを通じた認知度向上</li> <li>利用者からの評価を5点満点中4.0以上</li> </ul>			
令和5年9年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>オンライン申請データの分析を通じた改善施策を導入する</li> <li>総合的なオンライン申請サービスの利用者数の向上を目指す</li> </ul>			<ul style="list-style-type: none"> <li>利用者からの評価を5点満点中4.0以上</li> <li>データ分析を通じた、サービス改善と市民サービスの総合的な向上</li> </ul>			
期待される効果(将来のビジョン)							
<ul style="list-style-type: none"> <li>交通手段がない人や、市外など遠く離れた場所にいる人も必要な手続きができる。</li> <li>仕事や子育て、介護等で市役所の開庁時間内に市役所に行けない人も、空いた時間に手軽に手続きができる。</li> <li>手続きに必要な持ち物などが、市役所に問い合わせることなく空いた時間で確認ができ、安心して手続きができる。</li> <li>いつでも市役所窓口の空き状況が確認でき、自身のタイミングに合わせた予約ができる。</li> </ul>							

武雄市デジタルトランスフォーメーション（DX）推進計画 アクションプラン（第1版）

		No.	2	施策	1-1：行政手続のスマート化		
事業名	証明書のコンビニ交付サービスの推進			担当課	市民課	基本方針	○ 市民DX
							地域DX
							行政DX
取組の背景				事業概要			
<p>・マイナンバーカードの利活用について証明書のコンビニ交付サービスができるようになり、令和3年12月から武雄市においてもコンビニ交付サービスを開始した。</p> <p>・コンビニ交付サービスの利用で来庁者が減少することで、その他の手続きに来られる方への丁寧な対応ができる。</p>				<p>・マイナンバーカードを使用し、コンビニに設置されている多機能端末機で各種証明書の取得ができる。</p> <p>・コンビニ交付サービスを利用することで、「書かずに」「待たずに」「いつでも」「お得に」証明書の取得ができる。</p>			
実施内容							
年度	取組事項(KPI)			年次目標(KGI)			
令和1年5年度	コンビニ交付利用率 R4 14.25% マイナンバーカード交付率 R5.3 73.69% ・「市報」や「市役所だより」において、コンビニ交付サービスの操作方法などを市民へ周知する ・庁内にコンビニ交付対応多機能端末機を設置し、市民の方へ操作方法などのサポートを行う			コンビニ交付利用率 ・令和5年当初目標 20% ・多機能端末機導入後 30%			
令和2年6年度	・コンビニ交付利用についての周知(市報、チラシ、市役所だより、出前講座、体験ツアー等) ・コンビニ交付手数料の減額(キャンペーン) ※手数料250円⇒100円(令和6年7月1日から1年間)			・コンビニ交付利用率 35%			
令和3年7年度	・コンビニ交付利用についての周知			・コンビニ交付利用率 40%			
令和4年8年度	・コンビニ交付利用についての周知			・コンビニ交付利用率 45%			
令和5年9年度	・コンビニ交付利用についての周知			・コンビニ交付利用率 50%			
期待される効果(将来のビジョン)							
・コンビニ交付サービスで取得できる証明書については、市役所に来庁しなくても、マイナンバーカードを利用していつでも取得ができる。 ・市役所来庁者が減ることで、市役所でしかできない手続きに来庁された方への丁寧な対応ができ、職員の業務改善にもつながる。							



武雄市デジタルトランスフォーメーション (DX) 推進計画 アクションプラン (第1版)

No.		3		施策		1-1: 行政手続のスマート化		
事業名	行政・利用者双方が効率的に事務が行える仕組み作り			担当課	建設課	基本方針	○	市民DX
								地域DX
								行政DX
取組の背景				事業概要				
<p>・許可等の申請は、書面での提出であり、図面等多くの書類を添付する必要があるため、行政、申請者双方が事務が煩雑になっている。</p> <p>・書類が多いため、保存場所の確保や過去の書類を探す時など苦慮している。</p> <p>・申請等の手続きは主に建設業者等が行うが、申請のため市役所に来庁するしたり、問い合わせる必要となるため、行政としても建設業界の労働時間削減の点からも負担軽減を図る必要がある。</p>				<p>・データの保存と検索等が容易に行える仕組み作り。</p> <p>・申請者が市役所に来庁せずに手続きが行える仕組み作り。</p> <p>・申請者が問い合わせせずに必要な情報をえることができる仕組み作り。</p> <p>・申請システムを使用して行政・申請者双方が効率的に事務が行える仕組み作り。</p>				
実施内容								
年度	取組事項(KPI)				年次目標(KGI)			
令和1年5年度	<p>市道等の使用許可・占用・形状変更等のオンライン申請化に取り組む(11種)</p> <p>・市道情報のホームページ公開準備のためのデータ等の整理</p> <p>・オンライン申請へ向けて業務フローの整理</p> <p>・オンラインサービスを開始し、周知する</p>				<p>・オンライン申請を開始</p>			
令和2年6年度	<p>・市道情報をホームページで公開する環境の構築</p> <p>・利用者への周知を図るとともに、意見等の集約を行い、オンライン申請の改善を図る</p> <p>・市道情報ホームページ公開に関し、システム導入及び公開後の作業フローの策定</p>				<p>・市道情報をホームページで公開を開始</p>			
令和3年7年度	<p>・利用者への周知を図るとともに、意見等の集約を行い、オンライン申請の拡充、改善を行う</p> <p>・紙→データでの保存へ切り替えを検討する</p>				<p>・利用者の増加 前年度比10%</p> <p>・申請書類のデータ保存の実施</p>			
令和4年8年度	<p>・申請が多い利用者(建設会社など)にアンケートを実施し、拡充・改善箇所の洗い出しを行う</p>				<p>・利用者の増加 前年度比10%</p> <p>・拡充・改善箇所のアンケートの意見を反映する</p> <p>・アンケート調査に併せて周知活動を実施</p>			
令和5年9年度	<p>・アンケート結果等を分析し、新たに実施</p>				<p>・利用者の増加 前年度比10%</p> <p>・申請手続きの改善・追加</p> <p>・許可書のデータ交付</p>			
期待される効果(将来のビジョン)								
<p>・申請書類がデータ提出になるため、書類保存や過去の書類検索の方法が容易になる。</p> <p>・申請手続きを来庁せず行えるため、利用者(建設会社関係)の業務時間削減が期待できる。</p> <p>・市道情報などを市役所に問い合わせることなく、空いた時間で確認できる。また、市職員の対応時間を削減できる。</p> <p>・電子決裁の導入時には比較的容易に対応できる。</p>								

武雄市デジタルトランスフォーメーション (DX) 推進計画 アクションプラン (第1版)

		No.	4	施策	1-1: 行政手続のスマート化			
事業名	利用者スマート登録			担当課	こども未来課	基本方針	○	市民DX
								地域DX
								行政DX
取組の背景				事業概要				
<ul style="list-style-type: none"> <li>子育て総合支援センターの初めての利用時に、手書きでの「利用者カード」を提出が必要となっている。</li> <li>「利用者カード」は、氏名、子どもの年齢・生年月日、連絡先を記入してもらっているため、子ども連れには、負担となっている。</li> <li>初来所時に相談や、悩みごとがあっても、周りに利用者がいたり、職員とコミュニケーションがとれるまでは、すぐに相談できないケースもある。</li> </ul>				<ul style="list-style-type: none"> <li>「利用者カード」登録をスマートに行える仕組みを作る。</li> <li>スマホ等を使って簡単登録できるようにし、氏名、生年月日、連絡先に加え、簡単なアンケート(子育ての悩みなど)を取り、迅速に対応することができるようにする。</li> </ul>				
実施内容								
年度	取組事項(KPI)				年次目標(KGI)			
令和1年5年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>現状での課題及び問題点の洗い出し</li> <li>使用システム、仕様の検討</li> <li>作業フローの作成</li> </ul>				<ul style="list-style-type: none"> <li>迅速に行える登録方法の検討</li> <li>課題及び問題点の整理</li> </ul>			
令和2年6年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>「利用者カード」登録のシステム構築</li> <li>アンケートなどを使った利用者意見や満足度の集約</li> </ul>				<ul style="list-style-type: none"> <li>迅速に行える登録システムの構築、運用開始</li> <li>登録者全体の内、オンライン登録割合10%</li> </ul>			
令和3年7年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>利用者情報更新の際の運用フローの整理及び運用実施</li> <li>アンケートなどを使った利用者意見や満足度の集約を行い改善を行う</li> </ul>				<ul style="list-style-type: none"> <li>サービスの利便性や質向上</li> <li>登録者全体のオンライン登録割合 前年度比10%増</li> </ul>			
令和4年8年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>アンケートなどを使った利用者意見や満足度の集約を行い改善を行う</li> </ul>				<ul style="list-style-type: none"> <li>サービスの利便性や質向上</li> <li>登録者全体のオンライン登録割合 前年度比10%増</li> </ul>			
令和5年9年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>アンケートなどを使った利用者意見や満足度の集約を行い改善を行う</li> </ul>				<ul style="list-style-type: none"> <li>サービスの利便性や質向上</li> <li>登録者全体のオンライン登録割合 前年度比10%増</li> </ul>			
期待される効果(将来のビジョン)								
<ul style="list-style-type: none"> <li>初来館及び毎年の更新時にオンラインでの登録・更新ができることにより、保護者の負担が軽減される。</li> <li>アンケートを登録項目に盛り込むことで、相談や、悩みごと、利用のきっかけ等の把握や、安心した相談につなげることができる。</li> </ul>								

武雄市デジタルトランスフォーメーション（DX）推進計画 アクションプラン（第1版）

No.		5		施策		1-1：行政手続のスマート化		
事業名	不在者投票請求兼宣誓書のオンライン化			担当課	選挙管理委員会事務局	基本方針	○	市民DX
								地域DX
								行政DX
取組の背景				事業概要				
<p>武雄市の有権者が遠隔地にて投票する際に必要な「不在者投票請求書兼宣誓書」について、現在は郵送で受付を行っているため、届くまでに時間がかかり、投票が間に合わなくなる恐れがある。また、申請の際の郵送代を申請者が負担している状況である。</p>				<p>郵送による請求をオンライン化することで、選挙人の費用負担を軽減し、手続き期間の短縮化を図ることができる。</p>				
実施内容								
年度	取組事項(KPI)				年次目標(KGI)			
令和1年5年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>課題と問題点の整理</li> <li>オンライン化後の作業フローの検討</li> </ul>				<ul style="list-style-type: none"> <li>課題と問題点の把握</li> <li>作業フローの策定</li> </ul>			
令和2年6年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>不在者投票請求兼宣誓書のオンライン申請フォームを作成</li> <li>オンライン移行後の事務処理フローの策定を行う</li> </ul>				令和7年7月執行見込みの参議院議員通常選挙に向けた導入準備			
令和3年7年度	7月に執行見込みの参議院議員通常選挙から導入開始 実際に使用して判明した問題点などを改善する				問題点や改善点がないかを確認・改善を図る			
令和4年8年度	実際に使用して判明した問題点などを改善する				問題点や改善点がないかを確認・改善を図る			
令和5年9年度	実際に使用して判明した問題点などを改善する				問題点や改善点がないかを確認・改善を図る			
期待される効果(将来のビジョン)								
<p>現在郵送により行っている「不在者投票請求書兼宣誓書」の提出を電子申請できるようにすることで市民の費用負担や時間の短縮化を図ることができる。それにより不在者投票のハードルを下げ、投票率向上を図ることができる。</p>								

武雄市デジタルトランスフォーメーション（DX）推進計画 アクションプラン（第1版）

		No.	6	施策	1-2：デジタル福祉サービスの拡充		
事業名	武雄市健康づくりDX推進			担当課	健康課	基本方針	○ 市民DX
							地域DX
							行政DX
取組の背景				事業概要			
<ul style="list-style-type: none"> <li>各種申請を紙ベースで受付を行っており、窓口での対応も多い。</li> <li>検診(健診)の予約受付を電話等を使って紙ベースで行っている。</li> <li>電話受付日は回線が混雑し、市民の方および職員の仕事処理に影響が出ている。</li> </ul>				<ul style="list-style-type: none"> <li>検診・健診・結果説明会・相談等のわかりやすい周知とその予約をネットで受け付ける仕組みを構築する。</li> <li>合わせて、紙面での周知や電話受付は継続し、デジタルディバイド対応を行い、どちらも利用しやすい環境を作っていく。</li> </ul>			
実施内容							
年度	取組事項(KPI)			年次目標(KGI)			
令和1年5年度	<b>【手続き等のオンライン化】</b> ・健診受診表、問診票等のオンライン請求申請を構築 ・健診結果説明会のオンライン予約が可能な環境を構築 ・講演会などのオンラインによる予約・受付が可能な環境を構築 ・ホームページ、広報などによる周知 <b>【eスポーツ】</b> ・介護予防を目的としたeスポーツの選定および普及			<b>【手続き等のオンライン化】</b> ・健診受診表、問診票等のオンライン請求受付開始 ・健診結果説明会のオンライン予約開始 ・各サービスにおけるオンライン申請利用者割合 30% <b>【eスポーツ】</b> ・eスポーツ体験開始および普及			
令和2年6年度	<b>【手続き等のオンライン化】</b> ・集団健診のオンライン予約ができる環境の構築 (受付フォームの作成、作業フローの策定等) ・ホームページ、広報などによる周知 ・アンケートによる市民意見の集約とそれに伴う改善 <b>【eスポーツ】</b> ・拠点を設けて推進活動を行う			<b>【手続き等のオンライン化】</b> ・集団健診のオンライン予約受付開始 ・各サービスにおけるオンライン申請・予約の利用者数割合 35% <b>【eスポーツ】</b> ・eスポーツ普及、推進			
令和3年7年度	<b>【手続き等のオンライン化】</b> ・オンライン申請拡充に向けた対象手続きの選定及び実装 ・オンライン相談、アプリなどの新規システムの検討 ・アンケートによる市民意見の集約とそれに伴う改善 <b>【eスポーツ】</b> ・他市町の取組状況を調査、意見交換			<b>【手続き等のオンライン化】</b> ・各サービスにおけるオンライン申請・予約の利用者数割合 40% <b>【eスポーツ】</b> ・eスポーツ普及、推進方法の見直し			
令和4年8年度	<b>【手続き等のオンライン化】</b> ・オンライン申請拡充に向けた対象手続きの選定及び実装 ・オンライン相談、アプリなどの新規システムの検討 ・アンケートによる市民意見の集約とそれに伴う改善 <b>【eスポーツ】</b> ・他市町とのオンラインによる交流大会検討			<b>【手続き等のオンライン化】</b> ・各サービスにおけるオンライン申請・予約の利用者数割合 45% <b>【eスポーツ】</b> ・eスポーツによる交流大会の開催			
令和5年9年度	<b>【手続き等のオンライン化】</b> ・オンライン申請拡充に向けた対象手続きの選定及び実装 ・オンライン相談、アプリなどの新規システムの検討 ・アンケートによる市民意見の集約とそれに伴う改善 <b>【eスポーツ】</b> ・他市町とのオンラインによる交流大会拡充			<b>【手続き等のオンライン化】</b> ・各サービスにおけるオンライン申請・予約の利用者数割合 50% <b>【eスポーツ】</b> ・eスポーツによる交流大会の拡充			
期待される効果(将来のビジョン)							
<b>【手続き等のオンライン化】</b> ・オンライン申請実装に伴い、時間・場所に縛られず手続きが行えるため、市民利便性の向上につながる。 ・手軽に検診(健診)の空き状況を確認し予約ができる環境を構築することにより、迅速な予約が可能になる。 ・事務処理面でも窓口対応時間減少に伴う業務負担が期待でき、余力を保健指導等の住民の健康に対する業務拡充へつなげることができる。 <b>【eスポーツ】</b> ・eスポーツを推進することにより介護予防につながる。							

武雄市デジタルトランスフォーメーション (DX) 推進計画 アクションプラン (第1版)

		No.	7	施策	1-2: デジタル福祉サービスの拡充			
事業名	すこやか相談(離乳食・育児)・助産師のなんでも相談			担当課	こども家庭課	基本方針	○	市民DX
								地域DX
								行政DX
取組の背景				事業概要				
<ul style="list-style-type: none"> <li>市民が、離乳食等について相談をする時には、事前に直接または電話予約の上、保健センターに向向く必要がある。</li> <li>職員も相談対応のため、保健センターに向向く必要がある。</li> <li>電話では、お子さんの状態を見ずに、聞き取りだけの相談対応になるため、実際の状況を直接対面で把握する必要がある。</li> </ul>				<ul style="list-style-type: none"> <li>相談予約から相談までをオンラインで行える環境の構築。</li> <li>職員が特定の場所へ赴くことなく、役所内で対応ができる環境を構築することで移動時間が削減でき、労働時間削減につながる。</li> </ul>				
実施内容								
年度	取組事項(KPI)			年次目標(KGI)				
令和1年5年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>オンライン相談実装に向けた作業フローの整理</li> <li>マニュアルの作成</li> <li>課題点、問題点の整理</li> <li>使用システム、対応環境の整備</li> </ul>			<ul style="list-style-type: none"> <li>実装に向けた整理及び準備を行う</li> </ul>				
令和2年6年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>オンライン相談予約及び相談の実装</li> <li>各サービスの対するアンケートを設置し、集約を行い意見反映を行う</li> <li>市民への周知を行う</li> </ul>			<ul style="list-style-type: none"> <li>利用者の満足度 50%</li> <li>オンライン相談利用度 20%利用</li> </ul>				
令和3年7年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>オンライン相談を開始する</li> <li>各サービスの対するアンケートを設置し、集約を行い意見反映を行う</li> <li>市民への周知を行う</li> </ul>			<ul style="list-style-type: none"> <li>利用者の満足度 60%</li> <li>オンライン相談利用度 40%利用</li> </ul>				
令和4年8年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>各サービスの対するアンケートを設置し、集約を行い意見反映を行う</li> <li>市民への周知を行う</li> <li>事業の効果判定を行い、次年度の日程や職員配置に反映させる</li> </ul>			<ul style="list-style-type: none"> <li>利用者の満足度 70%</li> <li>オンライン相談利用度 60%利用</li> </ul>				
令和5年9年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>各サービスの対するアンケートを設置し、集約を行い意見反映を行う</li> <li>市民への周知を行う</li> <li>事業の効果判定を行い、次年度の日程や職員配置に反映させる</li> </ul>			<ul style="list-style-type: none"> <li>利用者の満足度 80%</li> <li>オンライン相談利用度 80%利用</li> </ul>				
期待される効果(将来のビジョン)								
<ul style="list-style-type: none"> <li>交通手段がない人や、お子さんを連れての外出が難しい人も必要な相談が受けられる。</li> <li>市民の外出の手間が減り、育児の合間に手軽に相談ができる。</li> <li>職員の相談場所への移動時間が省略でき、対応時間の削減につながる。</li> </ul>								

武雄市デジタルトランスフォーメーション（DX）推進計画 アクションプラン（第1版）

No.		8		施策		1-2：デジタル福祉サービスの拡充		
事業名	障がいに関するオンライン相談 (どこからでも相談できるしくみ作り)			担当課	福祉課	基本方針	○	市民DX
								地域DX
								行政DX
取組の背景				事業概要				
<p>・交通手段がない方、外出に不安を感じている方との相談は電話で受けることはできるが表情が見えない。</p> <p>・コロナ禍のときは認定調査等、オンラインでの面会・調査を行っていた。その際、表情が見えることで電話だけでは伝わらない相手の様子がわかり、有効な方法であるとの実績も確認できている。</p>				<p>相談者と福祉課、場合によっては武雄市相談支援事業所の三者でオンライン相談ができる仕組み作り。</p>				
実施内容								
年度	取組事項(KPI)				年次目標(KGI)			
令和1年6年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・他市町の情報収集</li> <li>・業務フローの整理・整備</li> <li>・課題の洗い出し</li> <li>・オンライン相談ができるシステム選定</li> <li>・環境整備(端末、場所、周辺機器)</li> <li>・次年度当初予算要求</li> </ul>				<ul style="list-style-type: none"> <li>・市民が、市役所に行かなくても相手の顔(表情)を見ながら相談できるしくみを作る</li> </ul>			
令和2年7年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・システム導入、運用開始</li> <li>・市民への周知を行う</li> <li>・サービス利用者から意見集約(アンケート)して改善を行う</li> </ul>				<ul style="list-style-type: none"> <li>・システム運用開始</li> <li>・各サービスの利便性向上と利用者数の増加</li> <li>満足度 50%</li> <li>利用率 10%</li> </ul>			
令和3年8年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・サービス利用者から意見集約(アンケート)して改善を行う</li> </ul>				<ul style="list-style-type: none"> <li>・各サービスの利便性向上と利用者数の増加</li> <li>満足度 前年度比10%増</li> <li>利用率 前年度比10%増</li> </ul>			
令和4年9年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・オンライン相談について分析を行い改善施策を導入し、他の障害者支援にもオンラインを導入していく</li> </ul>				<ul style="list-style-type: none"> <li>・分析を通じた、サービス改善と市民サービスの総合的な向上</li> <li>・各サービスの利便性向上と利用者数の増加</li> <li>満足度 前年度比10%増</li> <li>利用率 前年度比10%増</li> </ul>			
令和5年度								
期待される効果(将来のビジョン)								
<ul style="list-style-type: none"> <li>・交通手段がない人が相談しやすくなる。(対面での相談なので相手の顔を見ることができ安心して相談できる)</li> <li>・顔が見れるので相談者の表情より状態が分かる。</li> <li>・武雄市相談支援センターの移動時間の短縮</li> </ul>								

武雄市デジタルトランスフォーメーション（DX）推進計画 アクションプラン（第1版）

		No.	9	施策	1-2：デジタル福祉サービスの拡充			
事業名	放課後児童クラブにおけるICT活用の推進			担当課	こども未来課	基本方針	○	市民DX
								地域DX
							○	行政DX
取組の背景				事業概要				
<ul style="list-style-type: none"> <li>・利用申込、退所届の申請を紙で受け付けており、提出時の手間や時間を要する上、受付側も窓口対応に時間が割かれているのが現状である。</li> <li>・放課後児童クラブから保護者への連絡は、紙媒体で配布しており、印刷・封緘・配布といった手間がかかるため、連絡が届くまでに時間を要している。</li> <li>・災害時等による緊急連絡はスマホや携帯電話のメールで個々へ送信している。</li> <li>・児童の入退室管理は支援員が名簿に記載し集計しているため、時間と手間を要している。</li> </ul>				<ul style="list-style-type: none"> <li>・利用申込、退所届を紙の申請のオンライン申請化を目指す。</li> <li>・放課後児童クラブから保護者への連絡(お便り配布)、アンケート、入退室管理等に総合的に活用できる新たなシステムを導入する。</li> </ul>				
実施内容								
年度	取組事項(KPI)			年次目標(KGI)				
令和1年5年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・利用申込、退所申請のオンライン化、及び実装</li> <li>・オンライン化の周知</li> <li>・オンライン化導入による作業フローの見直し</li> </ul>			申請の内オンライン申請の割合 10%増				
令和2年6年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>保護者、関係職員双方の負担軽減につながるシステムの導入検討、要件の整理</li> <li>・放課後児童クラブシステム導入に向けた課題点の洗い出し</li> <li>・システムの機能要件(保護者への連絡(プッシュ通知・緊急連絡)、アンケート機能、出欠連絡、入退室管理等)の調査、検討</li> <li>・他市町調査</li> <li>オンライン申請</li> <li>・アンケートなどを基にオンライン申請の改善</li> </ul>			<ul style="list-style-type: none"> <li>・放課後児童クラブシステム導入に向けた課題点の整理</li> <li>・システム情報の把握</li> <li>・申請の内オンライン申請の割合 前年度比10%増</li> </ul>				
令和3年7年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・放課後児童クラブシステム導入に向けた仕様検討、システム選定</li> <li>・通信環境の整備</li> <li>・他市町調査</li> <li>・予算要求</li> <li>オンライン申請</li> <li>・アンケートなどを基にオンライン申請の改善</li> </ul>			<ul style="list-style-type: none"> <li>・システム導入に向けた環境整備と運用準備</li> <li>・申請の内オンライン申請の割合 前年度比10%増</li> </ul>				
令和4年8年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・放課後児童クラブシステムの本格導入</li> <li>・運用マニュアル、フローの策定</li> <li>・運用に伴う職員の研修</li> <li>・放課後児童クラブシステムの使用感に対するアンケートなどでの意見集約</li> </ul>			<ul style="list-style-type: none"> <li>・放課後児童クラブシステムの運用開始</li> <li>・運用に伴う職員の研修の完了</li> <li>・利用する保護者や職員の利便性の向上 利用満足度50%</li> <li>・申請の内オンライン申請の割合 前年度比10%増</li> </ul>				
令和5年9年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・放課後児童クラブシステムの使用感に対するアンケートなどでの意見集約及び改善</li> </ul>			<ul style="list-style-type: none"> <li>・利用する保護者や職員の利便性の向上 利用満足度50%</li> <li>・申請の内オンライン申請の割合 前年度比10%増</li> </ul>				
期待される効果(将来のビジョン)								
<ul style="list-style-type: none"> <li>・放課後児童クラブにおいて児童の入退室管理や、保護者との連絡機能を有したシステムを導入することにより、正確かつ迅速な情報共有、児童の安全性の向上、保護者の利便性の向上、職員の事務負担軽減及び保育の質の向上を図り、継続的かつ安全・安心なクラブ運営につながる。</li> </ul>								

武雄市デジタルトランスフォーメーション（DX）推進計画 アクションプラン（第1版）

No.		10		施策		1-3：公共交通と施設の利用最適化		
事業名	地域交通のDX化			担当課	企画政策課	基本方針	○	市民DX
								地域DX
								行政DX
取組の背景				事業概要				
<p>近年、タクシーやバスの運転手不足や人口減少による公共交通の利用者減少が公共交通の課題となっている。また、新型コロナウイルスの5類以降、西九州新幹線開業に伴う観光客の増加への対応や、高齢者の移動手段の確保も課題である。こうした課題を解決するため、デジタル技術を活用し、持続可能な公共交通の構築を図る。</p>				<p>・現在導入しているAIデマンドシステムをさらに活用し、利用者の利便性向上と効率的な運行を図る。</p> <p>・自動運転等の新たな技術の調査研究を行い、将来的な実用化に向けて検討する。</p> <p>・地域交通の活性化を図るため、MaaSの取組を検討する。</p>				
実施内容								
年度	取組事項(KPI)				年次目標(KGI)			
令和1年5年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>課題点の洗い出し</li> <li>新たな運転技術等の情報収集</li> <li>他市町の取組や事例を調査研究</li> </ul>				<ul style="list-style-type: none"> <li>課題の整理</li> <li>ほんわかカー朝日・橘・武雄線(AIデマンド型タクシー)の乗降場所追加</li> <li>他市町の自動運転バス試乗会へ参加</li> </ul>			
令和2年6年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>データ分析による交通政策の立案(対象地域、ルート、時間等)</li> </ul>				<ul style="list-style-type: none"> <li>新たな地域公共交通計画の策定</li> </ul>			
令和3年7年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>交通のDX化、MaaS導入に向けた具体的な事業の検討</li> <li>委託業者やシステムの選定</li> </ul>				<ul style="list-style-type: none"> <li>具体的な事業の決定</li> </ul>			
令和4年8年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>実証実験計画策定(対象地域・ルート選定、時間帯選定など)</li> <li>※事業内容によっては地域公共交通会議を実施</li> </ul>				<ul style="list-style-type: none"> <li>実証実験を実施</li> </ul>			
令和5年9年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>実証実験の効果測定、事業の評価、実装判断</li> </ul>				<ul style="list-style-type: none"> <li>新たなシステムの本格導入の判断</li> </ul>			
期待される効果(将来のビジョン)								
<ul style="list-style-type: none"> <li>地域交通のDX化により、公共交通の利用促進や利便性向上が期待される。</li> <li>高齢者の移動手段の確保や市民の生活の質が向上し、地域の活性化が図られる。</li> </ul>								



武雄市デジタルトランスフォーメーション（DX）推進計画 アクションプラン（第1版）

		No.	11	施策	1-3：公共交通と施設の利用最適化			
事業名	公共施設予約管理支援事業			担当課	スポーツ課 生涯学習課 文化課、公園課	基本方針	○	市民DX
								地域DX
								行政DX
取組の背景				事業概要				
<p>窓口や電話受付等での運営は、手続きの煩雑さや利用者が手続できる時間帯が限られる等の課題があり、施設の効率的な運営と利用者の利便性向上が求められている。</p> <p>これを解決するため、オンライン予約管理システム等を導入することにより、施設の運営合理化と市民サービスの向上が期待できる。</p>				<p>施設の予約管理システムを構築し、オンラインでの予約手続きや決済等を簡単かつ効率的に行える仕組みを構築する。</p> <p>Webやモバイルアプリを通じて、施設の利用可能な日程の確認、予約及び決済を可能とし、情報の適切な管理のためセキュリティ対策も十分に行う。</p> <p>将来的にはスマートロックやスマートセンサー等の導入により、施設の利用最適化を図る。</p>				
実施内容								
年度	取組事項(KPI)			年次目標(KGI)				
令和1年度 15年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・利用者の要望や施設の種類に合わせて、予約管理システムに必要な機能や特徴を明確化する</li> <li>・現行の予約方法等の問題点を洗い出し、改善点を把握する</li> <li>・デジタル田園都市国家構想交付金交付申請を行う</li> </ul>			<ul style="list-style-type: none"> <li>・予約管理システムの導入に関する要件の整理及びニーズの把握</li> </ul>				
令和2年度 26年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・システム、サービスの選定をし、オンラインによる予約及び決済ができる環境を構築する。(初年度は体育施設26箇所)</li> <li>・市報やHPでの市民への周知を図る</li> </ul>			<ul style="list-style-type: none"> <li>・施設予約のオンライン化への移行</li> <li>・市民等への周知</li> </ul>				
令和3年度 37年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・予約システムサービスに各町公民館及びキャンプ場を加える</li> <li>・オンライン予約等を利用する市民や施設管理者の意見を集約し、改善する</li> <li>・対象施設の拡充により市民サービスの充実化を図る</li> </ul>			<ul style="list-style-type: none"> <li>・サービスの利便性向上と利用者満足度の向上</li> <li>&lt;目標値&gt;</li> <li>・オンライン利用状況(予約全体の内)50%</li> <li>・満足度70%</li> </ul>				
令和4年度 48年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・予約システムサービスに文化会館を加える。</li> <li>・オンライン予約等を利用する市民や施設管理者の意見を集約し改善する</li> <li>・スマートロックやスマートセンサー等サービス内容の拡充により市民サービスの充実化を図る</li> </ul>			<ul style="list-style-type: none"> <li>・サービスの利便性向上と利用者満足度の向上</li> <li>・操作、運用フローの改定</li> <li>&lt;目標値&gt;</li> <li>・オンライン利用状況(予約全体の内)60%</li> <li>・満足度80%</li> </ul>				
令和5年度 59年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各サービスを利用する市民や施設管理者の意見を集約し改善する</li> </ul>			<ul style="list-style-type: none"> <li>・サービスの利便性向上と利用者満足度の向上</li> <li>&lt;目標値&gt;</li> <li>・オンライン利用状況(予約全体の内)70%</li> <li>・満足度90%</li> </ul>				
期待される効果(将来のビジョン)								
<ul style="list-style-type: none"> <li>・施設の運営効率が向上し、市民の利便性向上が期待できる。</li> <li>・利用データの収集・分析が容易となり、施設運営の改善策検討やサポートによる、施設利用率の最適化が図られる。</li> <li>・利用者満足度の向上に繋がり、地域社会におけるサービスの質と運営効率が飛躍的に向上する。</li> </ul>								

武雄市デジタルトランスフォーメーション (DX) 推進計画 アクションプラン (第1版)

		No.	12	施策	1-4: デジタルディバイド(格差)対策			
事業名	誰もがデジタルの恩恵を受けられる環境づくり			担当課	デジタル政策課	基本方針	○	市民DX
								地域DX
								行政DX
取組の背景				事業概要				
<p>・国が提供するびったりサービス(27手続き)や市が提供するオンライン申請サービス等行政手続きのオンライン化等、今後、デジタル技術を活用したサービスが提供されていく一方、高齢者等の中には、情報通信技術へのアクセス手段(パソコンやスマートフォン等)を持っていない人が多く、これにより、情報やサービスへのアクセスが制限され、情報格差、いわゆるデジタルディバイドが生じている。</p>				<p>・高齢者やデジタルディバイドの影響を受ける市民等が、スマートフォンの操作方法やインターネットの利用方法を学べる環境を整備し、その環境の利用促進を図る。</p>				
実施内容								
年度	取組事項(KPI)			年次目標(KGI)				
令和15年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>令和5年10月から行政手続きのオンライン化の開始に合わせて、高齢者等スマホの操作に不安を抱える方を対象に、地域密着型として各町公民館における集合形式のスマホ講座、広域展開型としてゆめタウン武雄店にて民間企業が運営する「みんなのス窓」を活用したりリモートによる個別スマホ相談を実施する</li> <li>上記講座実施の前段として、講師(デジタル人材)育成講座を実施する</li> <li>市HPや広報誌、チラシ配布等による周知を行い利用促進を図る</li> <li>コールセンター業務等、デジ田申請のオプションの事業として申請を行う</li> </ul>			<ul style="list-style-type: none"> <li>地域密着型スマホ講座(各町公民館)に参加者最大7~8名のうち、半分程度の集客を図る</li> <li>広域展開型スマホ相談(みんなのス窓)の利用平均1日当り3~4名</li> <li>デジタル人材育成講座については、10名以上の参加を目指す</li> </ul>				
令和16年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>みんなのス窓の環境を市役所本庁にも整備し、利用できる場所の拡張を行うことで認知度を高め、サポート環境の拡充を図る</li> <li>R5デジ田交付金採択によって、電話による相談(コールセンター)を開設</li> <li>みんなのス窓運営企業と連携して、利用促進キャンペーンを実施する</li> </ul>			ゆめタウン及び本庁におけるサポート窓口の利用者数について、1日平均3~4名を目指す				
令和17年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>各サポートを利用する市民や職員の意見等を集約し改善する</li> <li>サポート窓口の拡充及び市民への随時周知により、利用者数の向上を図る</li> <li>行政のデジタル推進に関するアンケートを実施し、デジタルディバイドの実態把握を行い、今後の施策検討を行う</li> </ul>			各サポート体制の改善・強化を行い、利用者数の増加率を前年比5%増を目指す				
令和18年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>実態把握した情報を元に各サポートの効率向上を図るためのプロセス改善・改善施策を導入する</li> <li>市民向けに各サポート利用促進キャンペーンを実施する</li> <li>サポート窓口の拡充及び市民への随時周知により、利用者数の向上を図る</li> </ul>			各サポート体制の改善・強化を行い、利用者数の増加率を前年比5%増を目指す				
令和19年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>サポート窓口の拡充及び市民への随時周知により、利用者数の向上を図る</li> </ul>			各サポート体制の改善・強化を行い、利用者数の増加率を前年比5%増を目指す				
期待される効果(将来のビジョン)								
<ul style="list-style-type: none"> <li>高齢者等が情報やサービスにアクセスし易くなることで、社会参加への促進につながり、地域コミュニティが活性化する。</li> <li>教育機会の平等化が図られ、様々な施設でのデジタルツールの利用が普及し、教育の質とアクセス性が向上する。</li> </ul>								

武雄市デジタルトランスフォーメーション (DX) 推進計画 アクションプラン (第1版)

		No.	13	施策	2-1: デジタルインフラの整備			
事業名	SNSの活用による、誰一人取り残さない情報発信の構築			担当課	秘書広報課	基本方針	市民DX	
							○	地域DX
								行政DX
取組の背景				事業概要				
<p>・現行のホームページは、平成27年のリニューアル後8年が経過しており、多言語化や「やさしい日本語」への対応、スマートフォン表示時の最適化など、高度化、多様化する閲覧者のニーズや、アクセシビリティへの対応、CMSによるコンテンツ管理の平易化が急務となっている。</p> <p>・情報発信媒体の多様化により、SNSによる情報発信についても極めて重要となっている。</p>				<p>・ホームページを全面的にリニューアルし、セキュリティ面(https化)やアクセシビリティへの対応などの各種の問題に対応する。</p> <p>・Webの知識がない職員でも簡単にコンテンツを管理できるCMSに更新し、迅速、確実な情報発信を行う。</p> <p>・SNSによる情報発信を強化し、必要な情報を一人でも多くの人へ届ける。</p>				
実施内容								
年度	取組事項(KPI)			年次目標(KGI)				
令和1年5年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現行のホームページの情報を可能な限り整理し、必要とする記事にたどり着きやすいようにする</li> <li>・10月から開始されたオンライン市役所のページを作成、追加で開始されるサービスを随時追加する</li> <li>・ホームページリニューアルについて、他の自治体の例などを調査・研究する</li> </ul>			<ul style="list-style-type: none"> <li>・利用者の利便性向上</li> <li>・工期、概算費用の把握</li> </ul>				
令和2年6年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・引き続き、現行のホームページの情報を可能な限り整理し、必要とする記事にたどり着きやすいようにする</li> <li>・ホームページリニューアルについて、他の自治体の例などを調査・研究を進め、令和7年度当初予算要求を行う</li> <li>・アンケートにより利用者目線での意見を集約し、仕様書等の作成に活用する</li> </ul>			<ul style="list-style-type: none"> <li>・利用者の利便性向上</li> <li>Web閲覧数 200万件(まちひとしごと総合戦略)</li> <li>・脱漏のない仕様書等の作成</li> </ul>				
令和3年7年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・引き続き、現行のホームページの情報を可能な限り整理し、必要とする記事にたどり着きやすいようにする</li> <li>・ホームページリニューアルについて、予算が確保できれば、年度当初に着手し、年度内に完成する</li> </ul>			<ul style="list-style-type: none"> <li>・利用者の利便性向上</li> <li>Web閲覧数 前年度比 10%増</li> <li>・着手から完成までの確実な管理</li> </ul>				
令和4年8年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・リニューアル後も、利用者の利便性向上のため、コンテンツの充実や不具合等の修正など、迅速に対応する</li> <li>・アンケートにより利用者の使用感等を集約するとともに、満足度を数値化して把握し、さらなる改良に役立てる</li> </ul>			<ul style="list-style-type: none"> <li>・利用者の利便性向上</li> <li>Web閲覧数 前年度比 10%増</li> </ul>				
令和5年9年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・リニューアル後も、利用者の利便性向上のため、コンテンツの充実や不具合等の修正など、迅速に対応する</li> </ul>			<ul style="list-style-type: none"> <li>・利用者の利便性向上</li> <li>Web閲覧数 前年度比 10%増</li> </ul>				
期待される効果(将来のビジョン)								
<p>・すべての人に優しく、必要な情報が伝わるホームページにより、市民はもちろん市民以外の方への情報発信を強化することで、武雄市の認知度向上、イメージアップ、シビックプライドの醸成につながる。</p>								

武雄市デジタルトランスフォーメーション（DX）推進計画 アクションプラン（第1版）

		No.	14	施策	2-1：デジタルインフラの整備			
事業名	キャッシュレス納付推進事業			担当課	収納課	基本方針	市民DX	
							○	地域DX
								行政DX
取組の背景				事業概要				
<p>国のデジタル化推進により、自治体システムの全国標準化が法律で定められた。これにより、令和7年度中に全国標準となる単税徴収方式に移行する必要がある。</p> <p>また、令和5年度からQRコード印字によりキャッシュレス納付の推進に取り組んでいるが、口座振替、スマホ決済、クレジットカード納付等更なる利用促進を図る必要がある。</p>				<p>・令和7年度からの単税徴収方式への移行に向けて、住民周知、金融機関対応、口座振替の変更等準備を進める。</p> <p>・キャッシュレス納付推進を図る。</p>				
実施内容								
年度	取組事項(KPI)			年次目標(KGI)				
令和1年5年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>単税徴収方式への移行に向けて、杵藤広域3市3町と協議を重ね計画的に準備を進める</li> <li>キャッシュレス納付のPRによる推進(窓口での説明、市報、ホームページ掲載、ポスター掲示他)</li> </ul>			<ul style="list-style-type: none"> <li>スムーズな徴収方式の移行に向けた市民への周知他、システム変更対応、納付書、口座振替対応を行う</li> <li>キャッシュレス納付の利用者数の増加</li> </ul>				
令和2年6年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>徴収方式の移行に向けて、住民周知他、システム変更対応、納付書、口座振替対応等計画的に準備を進める</li> <li>キャッシュレス納付のPRによる推進(窓口での説明、市報、ホームページ掲載、ポスター掲示他)</li> </ul>			<ul style="list-style-type: none"> <li>スムーズな徴収方式の移行に向けた市民への周知他、システム変更対応、納付書、口座振替対応を行う</li> <li>キャッシュレス納付の利用者数の増加(前年比3%増)</li> </ul>				
令和3年7年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>令和7年度当初 単税徴収方式への移行</li> <li>令和7年12月 標準化システム運用開始</li> <li>キャッシュレス納付のPRによる推進(窓口での説明、市報、ホームページ掲載、ポスター掲示他)</li> </ul>			<ul style="list-style-type: none"> <li>システム移行を円滑に進め、市民に対して周知徹底を図る</li> <li>キャッシュレス納付の利用者数の増加(前年比3%増)</li> </ul>				
令和4年8年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>キャッシュレス納付のPRによる推進(窓口での説明、市報、ホームページ掲載、ポスター掲示他)</li> </ul>			<ul style="list-style-type: none"> <li>キャッシュレス納付の利用者数の増加(前年比3%増)</li> </ul>				
令和5年9年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>キャッシュレス納付のPRによる推進(窓口での説明、市報、ホームページ掲載、ポスター掲示他)</li> </ul>			<ul style="list-style-type: none"> <li>キャッシュレス納付の利用者数の増加(前年比3%増)</li> </ul>				
期待される効果(将来のビジョン)								
<p>全国標準のシステム導入により、どこに住んでいても共通の仕様での行政サービスが利用できるようになる。</p> <p>キャッシュレス納付の推進により、市民の利便性向上、収納率向上、職員の窓口対応の事務負担軽減等が期待される。</p>								

武雄市デジタルトランスフォーメーション (DX) 推進計画 アクションプラン (第1版)

No.		15		施策		2-1: デジタルインフラの整備		
事業名	マイナンバーカード管理システム導入			担当課	市民課	基本方針	○	市民DX
							○	地域DX
							○	行政DX
取組の背景				事業概要				
<ul style="list-style-type: none"> <li>・マイナンバー制度開始後、マイナンバーカードの取得状況について個別に管理をする必要がある。</li> <li>・現在の取得率は約80%であり、個々の取得情報をエクセルデータで管理している。</li> <li>・杵藤広域圏内で協議の上、広域圏で一括導入。</li> <li>・システム導入により業務効率は上がり、未取得者への申請勧奨やコンビニ交付の利用促進など普及活動により注力することができる。</li> </ul>				<ul style="list-style-type: none"> <li>・住基端末で管理をすることで、住基異動等にも連動した管理ができる。</li> <li>・膨大なデータ容量であっても、安定した運用管理が実現できる。</li> </ul>				
実施内容								
年度	取組事項(KPI)				年次目標(KGI)			
令和1年5年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・令和3年度、4年度のマイナンバーカードの取得者増に伴う管理方法の検討</li> <li>・他市町取組等の情報収集</li> <li>・マイナンバーカード管理システム導入について、広域圏管内での情報共有</li> <li>・次年度予算要求</li> <li>・導入後の事務フローについて現行のマニュアルをもとに整理{現行のエクセルで管理している内容が、システム導入後どのような管理になるのか確認(県内既導入自治体視察)}</li> </ul>				<ul style="list-style-type: none"> <li>・情報管理を適切に行い、データ整理を行う</li> </ul>			
令和2年6年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・杵藤広域圏主体によるマイナンバーカード管理システム導入</li> <li>・マイナンバーカード管理システム運用</li> </ul>				<ul style="list-style-type: none"> <li>・システムの適切な運用</li> </ul>			
令和3年7年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・マイナンバーカード管理システム運用</li> </ul>				<ul style="list-style-type: none"> <li>・システムの適切な運用・管理</li> <li>※マイナポイント事業時申請者の更新のピーク年度</li> </ul>			
令和4年8年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・マイナンバーカード管理システム運用</li> <li>・令和3年度申請者(約9,500人(令和6年2月末)人口比約20%)の更新手続きの把握</li> </ul>				<ul style="list-style-type: none"> <li>・システムの適切な運用・管理</li> </ul>			
令和5年9年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・マイナンバーカード管理システム運用</li> <li>・令和4年度申請者(約15,000人(令和6年2月末)人口比約32%)の更新手続きの把握</li> </ul>				<ul style="list-style-type: none"> <li>・システムの適切な運用・管理</li> </ul>			
期待される効果(将来のビジョン)								
<ul style="list-style-type: none"> <li>・令和5年12月末時点、マイナンバーカード保有率が約80%(約37,000人)の申請・交付状況を把握する。</li> <li>・マイナンバーカードについては、今後100%近くまでなると見込まれるため、保有者、更新時期などの管理ができる。</li> <li>・パソコンでエクセルデータ管理をしているが、住基システムでの管理となるため、住民票異動の情報が連動され管理できる。また、情報量が多いため、管理システムでの安定した管理ができる。</li> </ul>								

武雄市デジタルトランスフォーメーション（DX）推進計画 アクションプラン（第1版）

		No.	16	施策	2-1：デジタルインフラの整備		
事業名	地域経済のDX化	担当課	商工観光課	基本方針		市民DX	
					○	地域DX	
						行政DX	
取組の背景				事業概要			
<p>・市内の事業者の中には、キャッシュレス対応が遅れ、事務処理の煩雑化、キャッシュレス対応に慣れた客層を獲得する機会の喪失につながっている。</p> <p>・世界的にインバウンド需要が急回復しており、直行便の復便や円安もあり、インバウンド客が来日しているが、インバウンド客のうちキャッシュレス対応に慣れた層を取り込む機会も失っている。</p> <p>・コロナ禍で現金のやり取りに抵抗がある人もいたり、長引く人手不足により事務処理の効率化も必要になってきている。</p>				<p>・市内飲食店・小売店へのキャッシュレス端末の導入支援</p> <p>・決済方法が現金のみとなっている市内3か所(キルンの森、大楠公園、保養村ポート乗り場)へのキャッシュレス端末の導入支援</p> <p>・地域通貨・ポイントの活用検討</p> <p>国内外のリピーター客の獲得</p> <p>金券、商品券発行等にかかる事務処理費用や負担の軽減</p>			
実施内容							
年度	取組事項(KPI)			年次目標(KGI)			
令和1年5年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>市内飲食店・小売店に対するキャッシュレス決済普及活動・支援</li> <li>現金決済対応のみの観光施設への導入支援</li> <li>地域通貨・ポイント導入に対するアンケート等の調査</li> </ul>			<ul style="list-style-type: none"> <li>大楠公園、キルンの森、保養村ポート乗り場の3施設に対するキャッシュレス端末の導入</li> </ul>			
令和2年6年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>①新たなキャッシュレスサービス等の紹介より効果的なサービス等が出てきていればそれらの情報提供と必要な支援</li> <li>②地域通貨・ポイント導入の効果検証と次年度の対応</li> <li>導入初年度の効果検証(実態把握、課題解決等)と導入1年目の展開内容の検討</li> </ul>			<ul style="list-style-type: none"> <li>市内飲食店・小売店に対するキャッシュレス決済の導入率50%以上</li> <li>地域通貨・ポイント導入の検討と実施</li> </ul>			
令和3年7年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>①新たなキャッシュレスサービス等の紹介より効果的なサービス等がでてくればそれらの情報提供と必要な支援</li> <li>新たなサービスを導入した事業者の効果検証、成功例紹介</li> <li>②1年目の効果検証の反映と2年目の効果検証(実態把握、課題解決等)と3年目の展開内容の検討</li> </ul>			<ul style="list-style-type: none"> <li>地域通貨・ポイントの導入率(人口の)5%以上</li> </ul>			
令和4年8年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>①新たなキャッシュレスサービス等の紹介より効果的なサービス等がでてくればそれらの情報提供と必要な支援</li> <li>新たなサービスを導入した事業者の効果検証と成功例紹介</li> <li>②2年目の効果検証の反映と3年目の効果検証(実態把握、課題解決等)と4年目の展開内容の検討</li> </ul>			<ul style="list-style-type: none"> <li>地域通貨・ポイントの導入率(人口の)7%以上</li> </ul>			
令和5年9年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>①新たなキャッシュレスサービス等の紹介より効果的なサービス等がでてくればそれらの情報提供と必要な支援</li> <li>新たなサービスを導入した事業者の効果検証と成功例紹介</li> <li>②3年目の効果検証の反映と4年目の効果検証(実態把握、課題解決等)</li> </ul>			<ul style="list-style-type: none"> <li>地域通貨・ポイントの導入率(人口の)9%以上</li> </ul>			
期待される効果(将来のビジョン)							
<ul style="list-style-type: none"> <li>事務処理の煩雑さが軽減され、効率的な事務処理につながることで、キャッシュレスサービス利用になれた客層の獲得による拡販、売り上げのアップにつながる。</li> <li>現金決済と比較して、外国語でのコミュニケーションが最低限で済むため、インバウンド客の獲得にもつながる。</li> </ul>							

武雄市デジタルトランスフォーメーション (DX) 推進計画 アクションプラン (第1版)

No.		17		施策		2-1: デジタルインフラの整備		
事業名	ごみに関する簡単検索システムの構築			担当課	環境課	基本方針	○	市民DX
							○	地域DX
							○	行政DX
取組の背景				事業概要				
<ul style="list-style-type: none"> <li>ごみの収集日(曜日・年末年始の休日)や分別の方法については電話による問い合わせが多い。</li> <li>問い合わせたい時間が庁舎開庁日であるとは限らず、必要な時に必要な情報が得られない。</li> <li>他市町では既にごみ情報配信、検索システムを運用している。</li> <li>品目による分別方法、収集日のプッシュ通知などでの情報提供を行う環境がない。</li> </ul>				<ul style="list-style-type: none"> <li>市民が市役所等に問い合わせることなく、ごみの収集日や分別の方法の検索システムの構築を行う。</li> <li>ごみ収集に関する突発的な事象(事故・火災等)の情報を市民へお知らせする手段として用いる。</li> <li>登録された集積所のごみ収集日を、収集の前日など事前にプッシュ通知などで情報提供する機能を導入する。</li> </ul>				
実施内容								
年度	取組事項(KPI)				年次目標(KGI)			
令和1年 5月 年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>他市町の取り組み状況を調査、情報収集を行う</li> </ul>				<ul style="list-style-type: none"> <li>他市町の情報を基にシステムのイメージを構築する</li> </ul>			
令和2年 6月 年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>システムに組み込む項目、データの整理</li> <li>市民ニーズ(電話問い合わせの内容等)の整理</li> </ul>				<ul style="list-style-type: none"> <li>想定される検索項目の整理</li> <li>提供データの整理</li> </ul>			
令和3年 7月 年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>ごみ処理施設との内容の協議、確認</li> <li>収集委託業者との情報内容の協議確認</li> <li>提供する情報データの完了、運用準備</li> </ul>				<ul style="list-style-type: none"> <li>提供する情報の精査</li> <li>検索テストによる問題点の洗い出し</li> <li>ごみに対する電話問い合わせ件数 前年度比20%減</li> </ul>			
令和4年 8月 年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>システム運用開始</li> <li>問題点の洗い出し、修正</li> </ul>				<ul style="list-style-type: none"> <li>システムの利便性のPR(出前講座等)</li> <li>ごみに対する電話問い合わせ件数 前年度比20%減</li> <li>サービス利用登録件数：全世帯数の30%</li> </ul>			
令和5年 9月 年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>システム運用上の課題を洗い出し、都度見直す</li> <li>制度変更等に伴う情報内容の修正</li> </ul>				<ul style="list-style-type: none"> <li>システムの使用頻度の向上にむけたPR</li> <li>ごみに対する電話問い合わせ件数 前年度比20%減</li> <li>サービス利用登録件数：全世帯数の40%</li> <li>提供する情報の精査、見直し</li> </ul>			
期待される効果(将来のビジョン)								
<p>検索システムにより、ごみの分別方法や収集日などの情報を知りたい時に提供でき、また収集日をお知らせする機能により、ごみ出し忘れを防ぐことができる。</p> <p>市民の利便性を高めるとともに、窓口や電話による問い合わせ件数が減ることで業務の改善につながる。</p>								



武雄市デジタルトランスフォーメーション (DX) 推進計画 アクションプラン (第1版)

No.		18		施策		2-1: デジタルインフラの整備		
事業名	地図情報のオープンデータ化 (墓地台帳、騒音・振動規制法の指定区域図、ごみ集積所)			担当課	環境課	基本方針	市民DX	
							○	地域DX
								行政DX
取組の背景				事業概要				
<ul style="list-style-type: none"> <li>市民やその親族が墓地台帳により墓地の場所を確認する場合、窓口で足を運んで紙の台帳を閲覧する必要がある。</li> <li>特定建設作業実施の届出をする事業者が、騒音規制法・振動規制法に基づく「区域指定」を確認する場合、窓口で足を運んで図面を確認する必要がある。</li> <li>ごみ集積所の場所を紙地図で管理しており、窓口や電話で問い合わせを受けている。</li> </ul>				<ul style="list-style-type: none"> <li>地図上に墓地の場所を示し、インターネット上で住所検索等により墓地名や管理者等の情報を取得できるしくみを作る。</li> <li>指定区域図をインターネット上に公開し、住所検索等により、作業場所がどの区域に該当するか確認できるしくみを作る。</li> <li>引越してこられた方がごみ集積所の場所の確認をいつでもできる仕組みを作る。</li> </ul>				
実施内容								
年度	取組事項(KPI)			年次目標(KGI)				
令和1年 5月 年度	・地図情報のオープンデータを行う項目の選定			オープンデータ化を行う項目の決定				
令和2年 6月 年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>墓地台帳に記載のない墓地があるため、宗教法人や区長に調査(確認)を依頼し、墓地台帳データを整理を行う</li> <li>騒音・振動規制法の指定区域図のデータを整理を行う</li> <li>ごみ集積所データを整理を行う</li> <li>課題、問題点の洗い出しを行う</li> </ul>			次年度のオープンデータ化に向けて、年度内に正確なデータを把握、整理、移行作業の準備を行う				
令和3年 7月 年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>墓地台帳、指定区域図(騒音・振動)のオープンデータ化に向けたシステム移行作業</li> <li>運用作業フローの策定</li> <li>広報、周知活動</li> </ul>			オープンデータの活用の開始及び周知				
令和4年 8月 年度	利用者に“役に立ったか”等のアンケート項目を作って意見等を聞き、改善する			利便性向上と利用者数の増加 アクセス数の増加 (目標値)前年度比50%増				
令和5年 9月 年度	利用者に“役に立ったか”等のアンケート項目を作って意見等を聞き、改善する			利便性向上と利用者数の増加 アクセス数の増加 (目標値)前年度比50%増				
期待される効果(将来のビジョン)								
<ul style="list-style-type: none"> <li>市外など離れた場所にいる人も、市役所に足を運ぶことなく必要な情報を取得することができる。</li> <li>開庁時間外でも必要な情報を取得することができ、迅速な情報の提供にもつながる。</li> </ul>								



武雄市デジタルトランスフォーメーション (DX) 推進計画 アクションプラン (第1版)

No.		19		施策		2-1: デジタルインフラの整備		
事業名	公園マップのオープンデータ化			担当課	公園課	基本方針		市民DX
							○	地域DX
								行政DX
取組の背景				事業概要				
<p>今年度開催された「武雄市の子育て環境の共有(見える化)に係る庁内連携会議」中で、市内に公園が少ない等の意見もあった。同様の意見は、市議会一般質問等でも取り上げられ、市民も同じことを考えていることが予想される。しかし、市内には都市公園の他多くの公園が存在しており、少ないという意見があるということは、公園の存在を知られていないのではないかと考える。</p>				<p>公園情報について、「統合型GIS」を活用することで、市民や事業者等が来庁せずに、いつでもどこでも情報を確認できるようにし、住民の利便性向上を図る。同時に業務の効率化・情報共有化・高度化及び市民や事業者等との対面による業務の削減を図る。</p>				
実施内容								
年度	取組事項(KPI)				年次目標(KGI)			
令和1年5年度	<p>オープンデータ化に向けた移行準備として</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・他市町事例調査</li> <li>・公園情報データの整理</li> <li>・移行に伴う作業フローの整理</li> <li>・移行後のデータ管理作業フローの策定</li> </ul>				公園情報・データ整理			
令和2年6年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・データ移行作業</li> <li>・課題、問題点の洗い出し及び解決</li> <li>・広報活動</li> </ul>				公園情報のオープンデータ化			
令和3年7年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アンケート等で市民意見を聞きながら改善及び更新</li> </ul>				アクセス数の増加 前年度比10%増			
令和4年8年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アンケート等で市民意見を聞きながら改善及び更新</li> </ul>				アクセス数の増加 前年度比10%増			
令和5年9年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アンケート等で市民意見を聞きながら改善及び更新</li> </ul>				アクセス数の増加 前年度比10%増			
期待される効果(将来のビジョン)								
<ul style="list-style-type: none"> <li>・情報を得たい人は、いつでもどこでも公園の情報を得ることができる。</li> <li>・随時更新することが可能で、旬の情報や最新の情報を掲載することが可能。</li> <li>・公園毎の閲覧状況を把握することができれば利用状況を推測することができ、施設整備を検討する際の参考資料になる。</li> </ul>								

武雄市デジタルトランスフォーメーション（DX）推進計画 アクションプラン（第1版）

No.		20		施策		2-1：デジタルインフラの整備		
事業名	都市計画区域・用途地域などの都市計画情報のオンラインによる検索、確認ができるしくみ作り			担当課	都市計画課	基本方針	○	市民DX
								地域DX
								行政DX
取組の背景				事業概要				
<ul style="list-style-type: none"> <li>・現在、民間事業者等が行う都市計画区域や用途地域の確認は窓口、来庁による確認や電話での問い合わせが多く、対応に時間を割いている。</li> <li>・武雄市HPへ都市計画区域等の図面を掲載しているが、境界線の近くや狭小な土地では、地図上の判別が困難であり、都市計画課へ足を運ぶか、電話で問い合わせる必要がある。</li> </ul>				<ul style="list-style-type: none"> <li>・都市計画課に問い合わせをしなくても、インターネット上で常時都市計画区域や用途地域を確認できるしくみを作る。</li> </ul>				
実施内容								
年度	取組事項(KPI)				年次目標(KGI)			
令和1年5年度	・オンライン上に掲載する都市計画区域などの各種データの選定							
令和2年6年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・掲載する各種データの抽出および整理</li> <li>・検索結果の表記方法の確認(検索した地点の情報を網羅的に表示する等)</li> <li>・抽出データを検索・確認用環境に移行する作業行程の決定</li> <li>・利用開始時に市のホームページやSNSで周知を図る</li> </ul>				<ul style="list-style-type: none"> <li>・電話、窓口による問い合わせ件数 前年度同月比20%減</li> <li>・オンライン利用者数 前年度同月比30%増</li> </ul>			
令和3年7年度	・オンライン利用者数の拡大を図るため、ホームページやSNS上で周知する				<ul style="list-style-type: none"> <li>・電話、窓口による問い合わせ件数 前年度同月比20%減</li> <li>・オンライン利用者数 前年度同月比30%増</li> </ul>			
令和4年8年度	・オンライン利用者数の拡大を図るため、ホームページやSNS上で周知する				<ul style="list-style-type: none"> <li>・電話、窓口による問い合わせ件数 前年度同月比20%減</li> <li>・オンライン利用者数 前年度同月比30%増</li> </ul>			
令和5年9年度	・オンライン利用者数の拡大を図るため、ホームページやSNS上で周知する				・年間の都市計画区域などに関する問い合わせ数の70%以上はオンライン利用			
期待される効果(将来のビジョン)								
<ul style="list-style-type: none"> <li>・民間事業者等は24時間いつでも自宅や事務所内等で用途地域などが確認でき、また、市役所へ問い合わせを行う手間が省ける。</li> <li>・問い合わせ等の減による職員の負担軽減。</li> </ul>								

武雄市デジタルトランスフォーメーション（DX）推進計画 アクションプラン（第1版）

No.		21		施策		2-2：デジタル技術を活用した教育の進化		
事業名	教育DX、校務DXの推進			担当課	学校教育課 新しい学校づくり課	基本方針	市民DX	
							○	地域DX
								行政DX
取組の背景				事業概要				
<ul style="list-style-type: none"> <li>・現代は将来の予測が困難な時代であり、社会を持続的に発展させていく創り手の育成を目指し、「令和の日本型学校教育」を発展させていかなければならない。</li> <li>・この教育において、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実が必要不可欠であり、実現する手段としてICTを活用し、教育DXの構築を目指す必要がある。</li> <li>・教育DX、校務DXを推進し、学校における働き方改革に取り組む。</li> </ul>				<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校におけるICT環境の維持、最適化を行う。(学習用1人1台端末、校務用端末、ネットワーク、ICT支援員の配置)</li> <li>・1人1台端末の標準仕様・汎用のソフトウェア、クラウド環境を活用した授業改善を推進する。(学校・教職員のサポート体制構築や研修機会提供、AI教材の活用等)</li> <li>・デジタルリテラシーの知識を身に付ける機会を提供し、自分で考え行動できる力を育む。</li> <li>・校務DXによる働き方改革を進める。</li> </ul>				
実施内容								
年度	取組事項(KPI)			年次目標(KGI)				
令和1年5年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・文部科学省「リーディングDXスクール事業」や、市単独のファシリテーター研修を通して、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実を図る授業改善を推進する</li> <li>・校務DXを推進し、働き方改革に繋がる効果を創出する</li> </ul>			<ul style="list-style-type: none"> <li>・教師のICT活用指導力(授業にICTを活用して指導する能力、児童生徒のICT活用を指導する能力)の改善</li> </ul>				
令和2年6年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各種研修を通して授業改善の推進を継続して実施し、「市教育委員会研修」等において全教員への確実な浸透を図る</li> <li>・学習者の情報活用能力向上を確実に進めるため、市教育委員会において児童生徒のDXイノベーター育成を行う</li> <li>・校務DXを推進し、市内小中学校間での差異を減らし、働き方改革に繋がる効果を伸ばす</li> </ul>			<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童生徒の情報活用能力の向上</li> <li>・教師のICT活用指導力(授業にICTを活用して指導する能力、児童生徒のICT活用を指導する能力)の改善</li> </ul>				
令和3年7年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育系基盤システム及び学習用ICT端末の更新を行い、ICT環境の最適化を進める。</li> <li>・教職員間の学びあいの機会を継続的に支援し、児童生徒の「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実を図る</li> <li>・AI教材(デジタル教科書、タブレットドリル)の活用を推進する</li> </ul>			<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童生徒の情報活用能力の向上</li> <li>・児童生徒一人一人の特性や理解度・進度に合わせて課題に取り組む場面でのICT機器の活用頻度の増加</li> </ul>				
令和4年8年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・校務支援システムの更新を行い、学習及び校務の最適なICT環境を維持する</li> <li>・教職員間の学びあいの機会を継続的に支援し、児童生徒の「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実を図る</li> <li>・AI教材(デジタル教科書、タブレットドリル)の活用を推進する</li> </ul>			<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童生徒の情報活用能力の向上</li> <li>・児童生徒一人一人の特性や理解度・進度に合わせて課題に取り組む場面でのICT機器の活用頻度の増加</li> </ul>				
令和5年9年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教職員間の学びあいの機会を継続的に支援し、児童生徒の「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実を図る</li> <li>・AI教材(デジタル教科書、タブレットドリル)の活用を推進する</li> </ul>			<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童生徒の情報活用能力の向上</li> <li>・児童生徒一人一人の特性や理解度・進度に合わせて課題に取り組む場面でのICT機器の活用頻度の増加</li> </ul>				
期待される効果(将来のビジョン)								
<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童生徒が主体的対話的に深く学ぶ授業の機会が増え、将来必要となる個々の思考力、判断力、表現力等の基礎力及び、他者と協力して問題を解決する力を育成する。</li> <li>・児童生徒に必要なデジタルリテラシーを含む情報活用能力の向上を確保する。</li> <li>・校務の効率化により教職員の在校時間を削減し、働き方改革を実現する。</li> </ul>								

武雄市デジタルトランスフォーメーション（DX）推進計画 アクションプラン（第1版）

No.		22		施策		2-2：デジタル技術を活用した教育の進化		
事業名	歴史資料のデジタルアーカイブ事業			担当課	文化課	基本方針	市民DX	
							○	地域DX
								行政DX
取組の背景				事業概要				
<ul style="list-style-type: none"> <li>・常設展示室がないため、市民が歴史資料を目にする機会が企画展などに限られている。</li> <li>・博物館法一部改正により、第三条三項に「博物館資料に係る電磁的記録を作成し、公開すること」と明記された。</li> <li>・実物資料に代わる公開手法により、資料の劣化を防ぐことができる。重要文化財などの保護と活用の両立が可能となる。</li> </ul>				<ul style="list-style-type: none"> <li>・市民に、インターネットを通じた情報提供や教育、広報活動を実施する。</li> <li>・デジタル技術を活用したデジタル資料のアーカイブ化により資料の管理を行い、インターネットを通じてデジタルアーカイブを公開する。</li> <li>・展示・鑑賞体験の提供のために資料をデジタル化する。</li> <li>・デジタル化し公開するために資料の調査・解読を進める。</li> <li>・文化交流施設や資料館でのデジタル展示を実施する。</li> </ul>				
実施内容								
年度	取組事項(KPI)			年次目標(KGI)				
令和1年5年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・武雄市歴史資料館のウェブサイトを更新する</li> </ul>			<ul style="list-style-type: none"> <li>・リニューアルしたウェブサイトを公開する</li> </ul>				
令和2年6年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・資料のデジタル管理台帳を作成する(R6当初予算で要求している)</li> <li>・ウェブサイトの内容の充実化を図る</li> </ul>			<ul style="list-style-type: none"> <li>・国重要文化財「武雄鍋島家洋学関係資料」2,224点を管理台帳に登録する</li> <li>・武雄の歴史を紹介するページを増やす</li> </ul>				
令和3年7年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・デジタルアーカイブに掲載する画像を準備する</li> <li>・ウェブサイトの内容の充実化を図る</li> <li>・R8当初予算要求に向けて、デジタルアーカイブシステムの選定を行う</li> </ul>			<ul style="list-style-type: none"> <li>・資料の撮影(令和7年度当初予算要求)</li> <li>・マイクロフィルム画像のデジタル化</li> <li>・武雄の歴史を紹介するページを増やす</li> </ul>				
令和4年8年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・デジタルアーカイブシステムの調達をおこなう</li> <li>・ウェブサイトの内容の充実化を図る</li> </ul>			<ul style="list-style-type: none"> <li>・デジタルアーカイブシステムを公開する</li> <li>・デジタルアーカイブと武雄市歴史資料館ウェブサイトに関連づける</li> <li>・資料の撮影(令和8年度当初予算要求)</li> <li>・マイクロフィルムのデジタル化</li> <li>・武雄の歴史を紹介するページを増やす</li> </ul>				
令和5年9年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・5年目以降は、情報の更新や追加を行っていく</li> <li>・資料の撮影は業者に依頼し(R9当初予算要求)、更新や追加作業は職員が行う</li> </ul>			<ul style="list-style-type: none"> <li>・情報の更新及び追加</li> </ul>				
期待される効果(将来のビジョン)								
<ul style="list-style-type: none"> <li>・市内外からいつでも武雄の歴史について知ることができる。</li> <li>・デジタルによる体系的な管理をすることで、資料の保存と活用を効果的に実施することができる。</li> <li>・学術的研究や学校教育、生涯学習としてデジタルアーカイブの活用ができる。</li> <li>・新型コロナウイルス感染症の経験から、博物館施設に利用の制限が求められた際におけるデジタル的な対応が可能となる。</li> <li>・頻発する記録的な災害により実物資料の喪失してしまったとしても、電磁的記録として残すことができる。</li> </ul>								

武雄市デジタルトランスフォーメーション（DX）推進計画 アクションプラン（第1版）

No.		23		施策		2-3：地域の産業活性化と起業支援		
事業名	データを活用した武雄市観光等の新たな価値創造			担当課	デジタル政策課	基本方針	市民DX	
							○	地域DX
								行政DX
取組の背景				事業概要				
<p>令和元年、令和3年に見舞われた大水害や新型コロナウイルスの感染拡大は、地域経済に大きく影響を及ぼし、特に宿泊施設や交通など観光インフラが縮小している。そうした中、令和4年9月に西九州新幹線が開業し、観光客等の消費を期待する市内の事業者は、インバウンドの動向など、交流人口の不確定要素が多いことから、事業への投資や仕入れ等の予測が難しく不安を募らせている。仮に観光客等が増加した場合、一部の観光スポットに人が集中する可能性があり、混み合いや待ち時間への不安・不満等により、新型コロナウイルス感染拡大前の観光体験ができない懸念がある。</p>				<p>西九州新幹線の開業、インバウンドの動向など、交流人口が増減する不確定要素が多いことから、観光地等における人流データを把握してにぎわい(混雑)予測状況を可視化するとともに、デジタルサイネージ等により観光客等に対して観光地等のにぎわい(混雑)予測状況やイベント情報、災害情報等を提供し、滞在時間に満足度の高い観光体験の提供と安全安心で快適に過ごしてもらえる仕組みを構築する。</p>				
実施内容								
年度	取組事項(KPI)			年次目標(KGI)				
令和1年5年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>プロポーザルによる委託先の決定</li> <li>システム及び環境構築に向けた定例会の実施(随時)</li> <li>令和6年3月までに運用開始</li> <li>1データ連携基盤の構築(にぎわい(混み合い)予測情報も含)</li> <li>2人流カウントカメラ(武雄温泉駅)及び流動人口データの収集</li> <li>3サイネージの設置(武雄温泉駅、武雄観光物産館、武雄市役所)</li> <li>4スマホウェブサイトの構築(QRトランスレーター含) など</li> </ul>			<ul style="list-style-type: none"> <li>年度末まで全サービス提供開始</li> </ul>				
令和2年6年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>実装した各サービスの効果検証</li> <li>人流データの利活用(分析等)の拡充</li> <li>データ連携基盤への新たな連携サービスの検討</li> <li>利用者アンケートの実施</li> <li>データ利活用に関する教育イベントの実施(学校教育課、新しい学校づくり課、デジタル政策課)</li> <li>データ利活用に関するコンテストの開催に向けた実施計画の策定</li> </ul>			<ul style="list-style-type: none"> <li>実装済みサービス利用満足度 3.5点/5点満点中</li> <li>にぎわい(混雑)予測情報の精度向上(年度内)</li> <li>データ利活用に関する教育イベントの実施(夏季)</li> <li>データ利活用コンテストの実施計画策定(年度内)</li> <li>新たなサービス運用の検討(1サービス以上)</li> </ul>				
令和3年7年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>実装(拡充も含)した各サービスの効果検証</li> <li>人流データ等の利活用(分析等)の拡充</li> <li>データ連携基盤への新たな連携サービスの検討</li> <li>利用者アンケートの実施</li> <li>データ利活用に関するコンテストの実施(優良モデルは市政へ反映)</li> </ul>			<ul style="list-style-type: none"> <li>実装済みサービス利用満足度 3.5点以上/5点満点中</li> <li>にぎわい(混雑)予測情報の精度向上(年度内)</li> <li>データ利活用コンテストの実施(年度内)</li> <li>新たなサービス運用実証実験の開始(年度末)</li> <li>新たなサービス運用の検討(1サービス以上)</li> </ul>				
令和4年8年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>実装(拡充も含)した各サービスの効果検証</li> <li>人流データ等の利活用(分析等)の拡充</li> <li>データ連携基盤への新たな連携サービスの検討</li> <li>利用者アンケートの実施</li> <li>データ利活用に関するコンテストの実施(優良モデルは市政へ反映)</li> </ul>			<ul style="list-style-type: none"> <li>実装済みサービス利用満足度 4.0点/5点満点中</li> <li>にぎわい(混雑)予測情報の精度向上(年度内)</li> <li>データ利活用コンテストの実施(年度内)</li> <li>新たなサービス運用実証実験の開始(年度末)</li> <li>新たなサービス運用の検討(1サービス以上)</li> </ul>				
令和5年9年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>実装(拡充も含)した各サービスの効果検証</li> <li>人流データ等の利活用(分析等)の拡充</li> <li>データ連携基盤への新たな連携サービスの検討</li> <li>利用者アンケートの実施</li> <li>データ利活用に関するコンテストの実施(優良モデルは市政へ反映)</li> </ul>			<ul style="list-style-type: none"> <li>実装済みサービス利用満足度 4.0点以上/5点満点中</li> <li>にぎわい(混雑)予測情報の精度向上(年度内)</li> <li>データ利活用コンテストの実施(年度内)</li> <li>新たなサービス運用実証実験の開始(年度末)</li> <li>新たなサービス運用の検討(1サービス以上)</li> </ul>				
期待される効果(将来のビジョン)								
<ul style="list-style-type: none"> <li>にぎわい(混雑)予測情報やイベント情報などを提供し、にぎわい先への誘導や混雑を回避した行動を選択する分散観光が実現できる。</li> <li>観光地周辺の災害時における避難シミュレーション解析を実施し、滞在時の不安感の解消や満足度の向上に期待が持てる。</li> <li>地域事業者等においては、人流データを活用した仕入れや人員補強等の事業効率化に取り組むことができ、民間投資を誘発し地域活性化につながる。</li> </ul>								

武雄市デジタルトランスフォーメーション (DX) 推進計画 アクションプラン (第1版)

No.		24		施策		2-3: 地域の産業活性化と起業支援		
事業名	スマート農業の推進			担当課	農林課	基本方針	市民DX	
							○	地域DX
								行政DX
取組の背景				事業概要				
<ul style="list-style-type: none"> <li>市内農業従事者の高齢化、農業の後継者不足、兼業農家の増加に伴い、農業従事者一人当たりの耕作面積が増加している。</li> <li>新規就農希望者もほとんどが施設園芸希望者で、米麦大豆などの土地利用型農業を希望する者が少ない。</li> </ul>				<ul style="list-style-type: none"> <li>市内における比較的大規模な農家、集落営農法人(任意組織は除く)などを対象に、スマート農業への取組着手および普及促進を促す。</li> <li>市内での農業活動における問題点やニーズの掘り起こしからはじめ、必要なサービスを提供する事業者とのマッチングを行う。</li> </ul>				
実施内容								
年度	取組事項(KPI)			年次目標(KGI)				
令和1年5年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>スマート農業の利活用が見込める農業経営体(地域)の探索</li> <li>市内農業者および経営体、地域代表者、JA等からの意見収集</li> <li>他自治体での取組み事例の研究</li> </ul>			<ul style="list-style-type: none"> <li>活用の見込みがある農業経営体(地区)の特定</li> <li>武雄市内で具体的に導入可能なスマート農業ソリューションの特定</li> </ul>				
令和2年6年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>国、県へ補助金(財源)調査および市による新規事業化の検討</li> </ul>			<ul style="list-style-type: none"> <li>必要になる計画等の作成</li> <li>次年度予算化(事業化)</li> </ul>				
令和3年7年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>農業者(団体)と導入事業者とのマッチング</li> <li>費用対効果の事前確認</li> <li>契約締結</li> </ul>			<ul style="list-style-type: none"> <li>事業開始(年内本稼働)</li> <li>導入設備の安定稼働</li> </ul>				
令和4年8年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>導入事業に係る現場(農業者)からの意見集約と、改善点の洗い出し</li> </ul>			<ul style="list-style-type: none"> <li>導入時より改善された仕組みづくり</li> </ul>				
令和5年9年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>これまでの結果を成功事例として集約。広報(市報・市HP)および普及活動による他の農業者(団体)へ拡大展開</li> <li>これまでの取組とは別の事例について研究</li> </ul>			<ul style="list-style-type: none"> <li>次期農業者(団体)の確保</li> <li>新たな事例への取組着手</li> </ul>				
期待される効果(将来のビジョン)								
<ul style="list-style-type: none"> <li>土地利用型農業の省力化、生産性向上により、「大変」「儲からない」というイメージ払しょくし、農業の魅力向上をめざす。</li> <li>魅力向上すれば米麦を主要作物に設定した新規就農者、後継者の増加も期待できる。</li> <li>今ある田を田の形で維持することになり、農地が持つ貯水能力を最大限活かした防災面での効果も見込める。</li> </ul>								



武雄市デジタルトランスフォーメーション（DX）推進計画 アクションプラン（第1版）

No.		25		施策		2-4：防災力向上と災害時の支援迅速化		
事業名	罹災証明交付等の支援迅速化事業			担当課	デジタル政策課 税務課	基本方針	市民DX	
							○	地域DX
								行政DX
取組の背景				事業概要				
<p>令和元年と令和3年の豪雨災害において、様々な支援を受けるために必要な罹災証明書が被災者の手元に届くまで1か月以上の期間を要し、被災者の生活や復旧作業に支障をきたしていた。</p> <p>また、罹災証明書を交付するためには、被災した建物等の被害認定調査が必要となるが、長期間に渡り調査体制を維持しなければならず、調査を担う職員や他自治体からの応援要員の配置計画や被災建物等の調査資料作成等、煩雑で時間を要し、日を追うごとに疲弊する職員にとっては身体的にも精神的にも過酷な状況となっていた。</p>				<p>災害発生後、被害認定調査に係る人員の配置及び効率的な調査結果の共有と迅速な証明発行を可能とする環境構築を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>AIによる効率的な調査員の配置及び調査ルートの設定</li> <li>調査端末(タブレット)による交付申請受付(現地受付可能)</li> <li>現場からの調査情報のリモート共有(住民情報系システムと調査端末のAPI連携)</li> </ul>				
実施内容								
年度	取組事項(KPI)			年次目標(KGI)				
令和1年5年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>令和4年度から実証実験を行った罹災証明交付迅速化システム(以降は新システムという)の本格運用開始</li> <li>新システムと住民情報系被災者支援システム(以降は基幹系システムという)との連携構築</li> <li>申請受付を基幹系システムから新システムへ移管</li> </ul>			<ul style="list-style-type: none"> <li>運用スキームの構築</li> <li>維持管理体制の構築</li> </ul>				
令和2年6年度	<p>災害時の迅速な対応力の維持とシステムの運用能力を向上させるため、6月中旬に以下内容を実施</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>システムの利用方法や災害時の対応手順のトレーニング</li> <li>システムのアップデート(随時)</li> <li>データ管理、プライバシー保護に関する教育</li> </ul>			<p>【平時】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>システム操作職員(関係職員のみ)研修受講率80%</li> </ul> <p>【災害時】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>罹災証明書交付までに要する期間：従来時の30%短縮</li> </ul>				
令和3年7年度	<p>災害時の迅速な対応力の維持とシステムの運用能力を向上させるため、6月中旬に以下内容を実施</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>システムの利用方法や災害時の対応手順のトレーニング</li> <li>システムのアップデート(随時)</li> <li>データ管理、プライバシー保護に関する教育</li> </ul>			<p>【平時】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>システム操作職員(関係職員のみ)研修受講率90%</li> </ul> <p>【災害時】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>罹災証明書交付までに要する期間：従来時の35%短縮</li> </ul>				
令和4年8年度	<p>災害時の迅速な対応力の維持とシステムの運用能力を向上させるため、6月中旬に以下内容を実施</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>システムの利用方法や災害時の対応手順のトレーニング</li> <li>システムのアップデート(随時)</li> <li>データ管理、プライバシー保護に関する教育</li> </ul>			<p>【平時】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>システム操作職員(関係職員のみ)研修受講率90%</li> </ul> <p>【災害時】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>罹災証明書交付までに要する期間：従来時の40%短縮</li> </ul>				
令和5年9年度	<p>災害時の迅速な対応力の維持とシステムの運用能力を向上させるため、6月中旬に以下内容を実施</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>システムの利用方法や災害時の対応手順のトレーニング</li> <li>システムのアップデート(随時)</li> <li>データ管理、プライバシー保護に関する教育</li> </ul>			<p>【平時】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>システム操作職員(関係職員のみ)研修受講率90%</li> </ul> <p>【災害時】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>罹災証明書交付までに要する期間：従来時の40%短縮</li> </ul>				
期待される効果(将来のビジョン)								
<ul style="list-style-type: none"> <li>罹災証明交付迅速化システムの導入により、被災者は迅速かつ効率的に罹災証明を取得することができ、従来の手続きに比べて時間を大幅に短縮し、被災者の生活や復旧作業に迅速に支援を提供する。これにより、被災者の利便性が向上し、市民サービスの質が向上する。</li> <li>業務効率が向上し、職員の負担が軽減される。また、自動化されたプロセスにより、人為的なミスや遅延が減少し、手続きの信頼性が向上する。</li> <li>被災者の情報がシステム上で一元管理されるため、必要な情報を迅速に共有し、効果的な支援や対応を行うことができる。</li> <li>罹災証明交付迅速化システムの運用や利用状況をモニタリングし継続的な改善を行うことで、サービスの向上と市民満足度の維持・向上を図れる。また、技術の進化やニーズの変化に柔軟に対応し、システムの革新を継続的に推進する。</li> </ul>								

武雄市デジタルトランスフォーメーション（DX）推進計画 アクションプラン（第1版）

No.		26		施策		2-4：防災力向上と災害時の支援迅速化		
事業名	避難所関連業務のデジタル化の推進			担当課	防災・減災課	基本方針	市民DX	
							○	地域DX
								行政DX
取組の背景				事業概要				
<p>・地震など大災害時には、短時間に多くの避難者が避難所に集まるため、スムーズに避難者を受け入れるための効率的な運営が求められる。</p> <p>・また、避難所運営に関わる職員も被災者であることが多いため、その負担軽減が課題となっている。</p>				<p>・避難者の受け入れから災害対策本部での集約、県への報告、市民への公表など、避難所関連業務の一連の流れの中で、業務効率化のためのデジタル化を推進する。</p>				
実施内容								
年度	取組事項(KPI)			年次目標(KGI)				
令和1年5年度	<p>【調査・研究】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・武雄市における課題を洗い出す</li> <li>・他市町で同様の取り組みが行われていないか調査する</li> <li>・取り組み方法について、デジタル政策課と協議する</li> <li>・デジタル庁による「広域災害を対象とした避難者支援業務のデジタル業務改善に関する調査研究」を参考に、調査研究を行う</li> </ul>			<ul style="list-style-type: none"> <li>・他市町での取り組み内容について調査し、方向性を検討する</li> <li>・武雄市における課題を集約する</li> </ul>				
令和2年6年度	<p>【調査・研究】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・国のデジタル田園都市国家構想交付金の活用が可能か検討する</li> <li>・武雄市防災アプリ「たけぼう」内での連携が可能か、アプリ保守業者と協議する</li> <li>・避難所運営職員からのヒアリングを実施する</li> </ul>			<ul style="list-style-type: none"> <li>・避難所運営職員からのヒアリング内容の集約</li> <li>・避難所運営等の仕組みについて内容を検討する</li> </ul>				
令和3年7年度	<p>【実施準備】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・令和8年度実施に向けた予算要求</li> </ul>			<ul style="list-style-type: none"> <li>・避難所設営から閉鎖までの運営に関する業務フローを整理する</li> <li>・課題を整理し、解決策を具体化する</li> </ul>				
令和4年8年度	<p>【実施】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・避難所専用端末による避難所運営の仕組みを完成させる</li> <li>・武雄ポータル、広報誌等を活用して、市民への周知を図る</li> </ul>			<ul style="list-style-type: none"> <li>・避難所運営の仕組みを完成させる</li> </ul>				
令和5年9年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・定期的なシステム研修を行い、安定的な運用を図る</li> <li>・効果を検証し、利用者及び職員からフィードバックを受けて機能改善・拡充を図る</li> </ul>			<ul style="list-style-type: none"> <li>・前年度構築した避難所運営の仕組みを向上させる</li> </ul>				
期待される効果(将来のビジョン)								
<ul style="list-style-type: none"> <li>・スムーズな避難所運営が可能となることにより、避難者のストレス軽減に繋がる。</li> <li>・災害対策本部と避難所との情報共有が迅速且つ容易になる。</li> <li>・避難所運営が省力化されることで、避難所運営職員の業務負担軽減に繋がり、人件費の抑制ができる。</li> </ul>								



武雄市デジタルトランスフォーメーション（DX）推進計画 アクションプラン（第1版）

No.		27		施策		2-4：防災力向上と災害時の支援迅速化		
事業名	市街地等の浸水情報をリアルタイムで収集するしくみ作り (ワンコイン浸水センサ実証実験への参加)			担当課	治水対策課	基本方針	市民DX	
							○	地域DX
								行政DX
取組の背景				事業概要				
<ul style="list-style-type: none"> <li>大雨による浸水被害が頻発するなか、河川やため池、道路等には国や県、ケーブルテレビ等において監視カメラや水位計などが設置されており、迅速な災害対応のため活用されている。</li> <li>河川から離れた市街地等においても高頻度で浸水が発生している状況を踏まえ、浸水状況をリアルタイムで把握する手段がない市街地等に浸水センサを設置することで情報を収集し、災害対応のさらなる迅速化や今後の治水対策に活用する必要がある。</li> </ul>				<ul style="list-style-type: none"> <li>国土交通省が実施する「ワンコイン浸水センサ実証実験」に参加し、浸水状況が把握する手段がない市街地等において、浸水状況を把握することができるしくみを作る。</li> </ul> (参考)国土交通省「ワンコイン浸水センサ実証実験」				
実施内容								
年度	取組事項(KPI)			年次目標(KGI)				
令和1年5年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>令和6年度「ワンコイン浸水センサ実証実験」のモデル地区及び設置箇所等の検討</li> <li>浸水センサの選定</li> <li>令和6年度「ワンコイン浸水センサ実証実験」への応募</li> </ul>			<ul style="list-style-type: none"> <li>令和6年度「ワンコイン浸水センサ実証実験」への応募及び採択</li> </ul>				
令和2年6年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>設置場所等の調整</li> <li>浸水センサの設置及び運用開始</li> </ul>			<ul style="list-style-type: none"> <li>モデル地区に浸水センサを設置</li> <li>浸水状況が把握できる仕組みの構築</li> </ul>				
令和3年7年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>ワンコイン浸水センサの運用</li> <li>収集した情報を災害対応及び治水対策への検討材料として活用</li> </ul>			<ul style="list-style-type: none"> <li>浸水状況の把握、治水対策の検討</li> </ul>				
令和4年8年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>ワンコイン浸水センサの運用</li> <li>収集した情報を災害対応及び治水対策への検討材料として活用</li> </ul>			<ul style="list-style-type: none"> <li>治水対策の実施</li> </ul>				
令和5年9年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>ワンコイン浸水センサの運用</li> <li>収集した情報を災害対応及び治水対策への検討材料として活用</li> </ul>			<ul style="list-style-type: none"> <li>浸水被害の軽減</li> </ul>				
期待される効果(将来のビジョン)								
<ul style="list-style-type: none"> <li>市街地等での浸水の発生状況をリアルタイムで把握することで、流域全体での治水対策だけでなく局地的な対策を検討し、エリアごとの浸水被害の早期解消が期待できる。</li> <li>モデル地区となり参加企業が増加すれば、将来的にワンコイン浸水センサのコストダウンが期待できる。</li> </ul>								

武雄市デジタルトランスフォーメーション (DX) 推進計画 アクションプラン (第1版)

No.		28		施策		3-1: 情報システム標準化・共通化		
事業名	基幹業務システム標準化・共通化事業			担当課	杵藤地区広域市町村圏組合 デジタル政策課	基本方針	○	市民DX
							○	地域DX
							○	行政DX
取組の背景				事業概要				
<p>国において、地方公共団体に対して、標準化対象事務(20業務)について、標準仕様に準拠するシステムの利用を義務付ける「地方公共団体情報システムの標準化に関する法律」が制定されたため、これに基づき、現行の基幹系業務を令和7年度までに標準準拠システムに移行させる必要がある。</p> <p>移行するためには、税の徴収方式が単税徴収でなければならないため、従来の集合徴収から単税徴収へ移行させる必要がある。また、国民健康保険業務においては、国民健康保険連合会が用意するシステム(こちらも標準準拠システム)への移行が確定しているため、現行業務スキームの見直しなどシステム移行に係る課題は山積している。</p>				<p>令和5年度中に税の徴収方式を変更する準備(条例改正等)を行い、翌年度には市民に対して周知を図るとともに、原則期限である令和7年度に標準仕様に準拠したシステムによる行政運営の実施を目指す。</p> <p>また、国民健康保険業務においても、国民健康保険連合会が用意するシステムに円滑な移行を行う。</p>				
実施内容								
年度	取組事項(KPI)				年次目標(KGI)			
令和1年5年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>各標準仕様準拠20業務について、基幹系業務システム業者による開発</li> <li>企画調整委員会(毎月開催)による進捗確認及び庁内情報共有</li> <li>必要に応じ、各業務担当部署ごとの確認作業</li> </ul>				<ul style="list-style-type: none"> <li>税の徴収方式の変更(単税徴収)に伴う条例改正(3月議会：収納課)</li> <li>企画調整委員会(広域圏内)における進捗状況等の庁内への情報共有(随時)</li> </ul>			
令和2年6年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>各標準仕様準拠20業務について、基幹系業務システム業者による開発</li> <li>企画調整委員会(毎月開催)による進捗確認及び庁内情報共有</li> <li>必要に応じ、各業務担当部署ごとの確認作業</li> </ul>				<ul style="list-style-type: none"> <li>税の徴収方式の変更(単税徴収)に係る市民への周知(収納課、税務課)</li> <li>企画調整委員会(広域圏内)における進捗状況等の庁内への情報共有(随時)</li> </ul>			
令和3年7年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>標準準拠システムへの移行準備(研修準備も含)</li> <li>ガバメントクラウドとの接続及び各種アプリケーション設定作業(6月)</li> <li>テスト運用(7月～9月上旬)</li> <li>移行リハーサル(9月)</li> <li>本格運用開始(10月～)</li> <li>運用保守の開始(10月～)</li> </ul>				<ul style="list-style-type: none"> <li>移行作業各工程の円滑な実施</li> </ul>			
令和4年8年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>移行後の運用状況確認(課題・問題点の洗い出し)</li> <li>アップデート及びカスタマイズの実施(適宜)</li> </ul>				<ul style="list-style-type: none"> <li>運用状況の監視</li> <li>不具合等に対する迅速な対応</li> </ul>			
令和5年9年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>移行後の運用状況確認(課題・問題点の洗い出し)</li> <li>アップデート及びカスタマイズの実施(適宜)</li> </ul>				<ul style="list-style-type: none"> <li>運用状況の監視</li> <li>不具合等に対する迅速な対応</li> </ul>			
期待される効果(将来のビジョン)								
<ul style="list-style-type: none"> <li>従来の広域運用を越えて他自治体と同じ基準やプロセスを共有でき、情報の流れがよりスムーズになるため、業務のムダが削減され、効率的な行政運営が実現できる。</li> <li>市民にとっては、どの市町村においても同レベルのサービスを受けることができ、利便性が向上する。また、迅速かつ正確な業務処理により市民満足度が向上する。</li> <li>杵藤地区広域市町村圏組合が独自にシステム調達・運用する必要がなくなりコスト効率が向上する。</li> </ul>								

武雄市デジタルトランスフォーメーション（DX）推進計画 アクションプラン（第1版）

No.		29		施策		3-2：業務プロセスの最適化	
事業名	電子決裁システム(電子決裁機能付き文書管理システム)の導入			担当課	総務課	基本方針	市民DX
							地域DX
							○ 行政DX
取組の背景				事業概要			
<p>・令和2年12月に総務省が自治体DX推進計画を策定し、行政手続のオンライン化が重点取組項目となった。本市は、これまで、1行政手続における押印の見直し(令和3年4月)、2行政手続のオンライン化に必要な通則条例の制定(令和5年3月)、3主要29手続を対象とする電子申請の開始(令和5年10月)等に取り組んできた。</p> <p>・現状、本市では、申請後の事務を含む各種行政事務を紙媒体で処理しており、行政手続全体をオンライン化することで、事務処理の迅速性・効率性の向上、保存文書の置場解消等の効果が見込める。</p>				<p>・本市では、令和5年10月23日から主要な一部の手続きについて電子申請が可能となり、今後、対象手続が拡充される見込みである。</p> <p>・行政手続の更なるオンライン化に向け、オンライン申請の対象手続について、その審査・決裁・通知までを一貫してオンラインで処理可能な電子決裁システムを導入する。</p> <p>・オンライン申請受付後の事務をはじめ、庁内の行政事務全般の処理を電子決裁システムで行うことで、市民の利便性向上、事務処理の迅速化・効率化に加え、ペーパーレス化・省スペース化を推進する。</p>			
実施内容							
年度	取組事項(KPI)			年次目標(KGI)			
令和1年5年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>電子決裁システム(一括通貫型)の導入事例、活用可能な補助制度等の調査を行う</li> <li>電子決裁システム導入までに必要な手続を整理する</li> <li>電子決裁システム導入に向けた庁内検討体制を構築する</li> </ul>			<ul style="list-style-type: none"> <li>導入に向けた情報(補助金・システム)の収集</li> <li>課題の洗い出しと整理 等</li> </ul>			
令和2年6年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>電子決裁システムの仕様書の作成、ベンダーからの情報収集等を踏まえ、予算要求(令和7年度当初予算目標)を行う。</li> <li>電子決裁に移行するために必要な例規整備を行う。</li> <li>電子決裁に移行後の文書管理方法について整理する。</li> <li>電子決裁導入に合わせ、現行の業務フローを点検し、業務の省力化・効率化の観点から必要な見直しを行う。</li> </ul>			<ul style="list-style-type: none"> <li>システム調達の準備(仕様書作成、予算化等)</li> <li>庁内での現行業務の見直し及び整理 等</li> </ul>			
令和3年7年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>予算成立後、電子決裁システム構築に係る業務委託契約を締結し、システム構築に着手する</li> <li>システム構築と並行して、電子決裁システムの運用ルールを作成し、職員向けに操作研修を行う</li> <li>システム構築完了後、試験運用を行う</li> </ul>			<ul style="list-style-type: none"> <li>電子決裁システムの構築の完了</li> <li>職員に対する操作研修の完了</li> <li>試験運用を通じた課題の抽出及び改善</li> </ul>			
令和4年8年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>電子決裁システムの本格運用を開始</li> <li>運用上の問題点を随時集約し、必要に応じて運用ルールの見直しを行う</li> </ul>			<ul style="list-style-type: none"> <li>電子決裁システムの運用開始</li> <li>電子決裁比率の目標値：起案文書50%、供覧文書80%</li> </ul>			
令和5年9年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>職員のシステム運用の習熟度を上げ、電子決裁比率の向上を図る</li> </ul>			<ul style="list-style-type: none"> <li>電子決裁比率の目標値：起案文書80%、供覧文書95%</li> <li>ペーパーレス化の目標値(文書保存箱数の対前年度比)：▼50%【令和10年度】</li> </ul>			
期待される効果(将来のビジョン)							
<ul style="list-style-type: none"> <li>庁内の行政事務全般の処理を電子決裁システムで行うことで、決裁の過程が可視化されて迅速な意思決定につながり、市民の利便性が向上する。</li> <li>文書管理をシステム化することで、文書の検索性の向上に加え、ペーパーレス化及び文書保存場所の省スペース化につながる。</li> <li>在宅で決裁・供覧ができるようになることで、職員の多様な働き方を推進する環境が整うとともに、非常時の業務継続にも寄与する。</li> </ul>							

武雄市デジタルトランスフォーメーション（DX）推進計画 アクションプラン（第1版）

No.		30		施策		3-2：業務プロセスの最適化		
事業名	財務会計システムの電子決裁導入			担当課	財政課 会計課	基本方針	○	市民DX
							○	地域DX
							○	行政DX
取組の背景				事業概要				
<p>・現行の財務会計システムにおける支出伝票等の決裁については、紙媒体で処理されている。紙媒体による決裁は、完了までに時間を要するほか、添付文書の保存場所の確保が困難、管理事務が煩雑といった問題を抱えている。</p> <p>・現行の財務会計システムは、令和6年10月に賃貸借契約の期間が終了するため、総務課の電子決裁システム(電子決裁機能付き文書管理システム)の導入に合わせた一体的な導入を図る必要がある。</p>				<p>・財務会計システムの更新及び電子決裁を導入する。 ※電子決裁システム(電子決裁機能付き文書管理システム)の導入に合わせた一体的なもの</p> <p>・更新する財務会計システムに適応した財務規則の見直し、運用ルールの改正及び職員への周知徹底を図る。</p>				
実施内容								
年度	取組事項(KPI)				年次目標(KGI)			
令和1年 6 年度 目	<p>・電子決裁システムと連携した財務会計システムの導入を前提とし、ベンダー等から情報収集を行う。システム構築に係る業務委託や賃貸借契約の仕様書の作成を行い、令和7年度当初予算の計上を目指す</p> <p>・現行の財務会計システムの賃貸借契約の終了後、令和7年度まで継続して使用する</p>				<p>・システムの仕様決定</p>			
令和2年 7 年度 目	<p>・システム構築に着手する</p> <p>・システム構築に合わせた財務規則の改正を行う</p> <p>・財務会計システムの運用ルールを作成する</p> <p>・職員向けの操作説明会を実施する</p> <p>・システム構築の完了、試験運用を行う</p>				<p>・財務会計システムにおける電子決裁の構築</p>			
令和3年 8 年度 目	<p>・財務会計システムにおける電子決裁の本格運用を開始する</p> <p>・運用上の問題点を随時集約し、必要に応じて運用ルールの見直しを行う</p> <p>・職員のシステム操作の習熟度の向上を図る</p>				<p>・電子決裁の運用開始</p> <p>・電子決裁比率 100%</p> <p>添付文書の電子管理 80%</p>			
令和4年 9 年度 目	<p>・運用上の問題点を随時集約し、必要に応じて運用ルールの見直しを行う</p>				<p>・添付文書の電子管理 100%</p>			
令和5年 年度 目								
期待される効果(将来のビジョン)								
<p>・財務会計システムに電子決裁を導入することにより、事務処理の迅速性・効率性の向上、保存文書の置場解消の効果を見込むことができる。</p> <p>・文書管理システムとの連動を図ることで、更なる効率性を見込むことができる。</p>								

武雄市デジタルトランスフォーメーション（DX）推進計画 アクションプラン（第1版）

		No.	31	施策	3-2：業務プロセスの最適化		
事業名	投票速報のデジタル化			担当課	選挙管理委員会事務局	基本方針	市民DX
							地域DX
							行政DX
取組の背景				事業概要			
投票当日の投票所状況について、各投票所から電話により速報係へ報告を行っており、電話回線の混雑や、集計作業が複雑になっているなど、課題がある状態になっている。				当日投票者数の速報を口頭報告からデジタル報告へ変更することにより、迅速な報告と簡易で正確な集計を可能とする。			
実施内容							
年度	取組事項(KPI)			年次目標(KGI)			
令和1年5年度	課題と問題点の整理を行い、デジタル化後の作業フローを策定する			課題と問題点の把握および作業フローの策定を行う			
令和2年6年度	様式の作成及びシステム化を行う			令和7年7月執行見込みの参議院議員通常選挙から導入できるよう準備する			
令和3年7年度	7月に執行見込みの参議院議員通常選挙から導入開始 実際に使用して判明した問題点などを改善する			問題点や改善点がないかを確認・改善を図る			
令和4年8年度	実際に使用して判明した問題点などを改善する			問題点や改善点がないかを確認・改善を図る			
令和5年9年度	実際に使用して判明した問題点などを改善する			問題点や改善点がないかを確認・改善を図る			
期待される効果(将来のビジョン)							
口頭報告による伝達誤りを防ぐことができる。 電話速報による順番待ちといった時間や事務の手間のロスを削減できる。 集計を簡易かつ迅速に行うことができる。							

武雄市デジタルトランスフォーメーション（DX）推進計画 アクションプラン（第1版）

No.		32		施策		3-2：業務プロセスの最適化		
事業名	市営浄化槽維持管理業務のデジタル化			担当課	下水道課	基本方針	○	市民DX
							○	地域DX
							○	行政DX
取組の背景				事業概要				
<ul style="list-style-type: none"> <li>市営浄化槽維持管理業務を市内4事業者へ委託している。</li> <li>3,000件を超える浄化槽管理台帳及び維持管理情報を紙媒体で管理している。</li> <li>台帳及び維持管理情報の質の確保。 (設置届、7及び11条検査情報等の把握)</li> <li>使用実態の把握が出来ていると言い難い状況にある。</li> </ul>				<ul style="list-style-type: none"> <li>維持管理情報をデジタル化し継続的にデータ管理することで浄化槽の使用実態を把握する。</li> <li>システムを導入し、維持管理の結果や修繕情報を蓄積することで計画的に機器を更新する。</li> <li>取得した情報(住所、名前等)をシステムへ取り込み事務軽減を図る。</li> </ul>				
実施内容								
年度	取組事項(KPI)				年次目標(KGI)			
令和1年 5月 年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>市営浄化槽維持管理に係る課題整理</li> <li>他市町の維持管理に関する情報収集</li> </ul>				<ul style="list-style-type: none"> <li>導入作業に必要な作業の整理</li> <li>対象データの整理</li> <li>課題、問題点の洗い出し</li> </ul>			
令和2年 6月 年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>設置届～維持管理までの事務整理</li> <li>現行保持している情報の電子データ化</li> <li>浄化槽維持管理システムの構築</li> </ul>				<ul style="list-style-type: none"> <li>システム移行に向けた事務の見直し</li> <li>既存情報の電子データ化</li> <li>管理業者、関係業者との調整</li> <li>導入後のデータ管理、運用に伴う作業フローの構築</li> <li>次年度(令和7年度)に浄化槽維持管理システム導入費用の予算化</li> </ul>			
令和3年 7月 年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>浄化槽維持管理システム導入</li> <li>維持管理事業者から維持管理情報の取得</li> <li>県から7、11条検査情報の取得</li> <li>市営浄化槽設置状況の把握</li> <li>市営浄化槽維持管理状況の把握、分析及び情報収集</li> </ul>				令和7年10月まで <ul style="list-style-type: none"> <li>既存情報のデータ移行</li> <li>維持管理情報のデータ移行</li> <li>検査情報のデータ移行</li> </ul> 令和7年11月以降 <ul style="list-style-type: none"> <li>データの適正運用と有効的な活用</li> </ul>			
令和4年 8月 年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>市営浄化槽設置状況の把握</li> <li>市営浄化槽維持管理状況の把握、分析及び情報収集</li> </ul>				データの適正運用と有効的な活用			
令和5年 9月 年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>市営浄化槽設置状況の把握</li> <li>市営浄化槽維持管理状況の把握、分析及び情報収集</li> </ul>				データの分析を通じた、市営浄化槽の維持管理の向上と総合的な設置状況の正確な把握			
期待される効果(将来のビジョン)								
<ul style="list-style-type: none"> <li>維持管理業者と維持管理情報を共有することで、利用者への確かな情報を提供出来る。</li> <li>浄化槽設置からの経過年数や修繕履歴を把握することで更新計画の平準化出来る。</li> <li>排水の水質状況を経年で把握することが出来る。</li> <li>事務の軽減につながる。</li> </ul>								

武雄市デジタルトランスフォーメーション（DX）推進計画 アクションプラン（第1版）

No.		33		施策		3-2：業務プロセスの最適化	
事業名	教育委員に係る各種会議の効率化			担当課	教育総務課	基本方針	市民DX
							地域DX
							行政DX
取組の背景				事業概要			
<ul style="list-style-type: none"> <li>毎月開催する定例教育委員会の資料は、データと紙媒体を準備し、事前に委員あてに送付している。</li> <li>当日、追加で配布する資料や、個別に配布する通知等もあり、混乱することがある。</li> </ul>				<ul style="list-style-type: none"> <li>定例教育委員会、学校訪問、市町教育委員会総会、研修会等の各種会議資料を共有するため、各委員（4人）にタブレット端末を貸与し、会議等のペーパーレス化及び業務の効率化を図る。</li> </ul>			
実施内容							
年度	取組事項(KPI)			年次目標(KGI)			
令和1年6年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>すでにタブレット端末を導入、活用している委員会や、会議システムを導入している委員会等から初期費用、経常経費、使用にかかる効果等の聞き取り、情報収集を行い、会議システムの導入について検討する</li> <li>タブレット端末購入、稼働に掛かる予算要求を行う（補正予算）</li> <li>予算の確保ができれば機材の購入、契約等の諸手続きを行い、委員及び関係者に対し、システム等の操作研修を実施する</li> </ul>			<ul style="list-style-type: none"> <li>9月又は12月議会で補正予算要求を行う</li> <li>予算の確保</li> <li>委員及び関係者を対象にシステム等操作研修の実施</li> </ul>			
令和2年7年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>会議システムを導入し、タブレットの活用を開始する</li> <li>タブレットの活用、会議システム等について実際に使用したのちの検証を行う</li> </ul>			<ul style="list-style-type: none"> <li>4月1日からの運用開始</li> <li>タブレット端末、会議システム等の円滑な運用</li> <li>教育委員会の資料作成等にかかる業務の効率化</li> </ul>			
令和3年8年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>実際に使用して判明した問題点などを改善する</li> </ul>			<ul style="list-style-type: none"> <li>問題点や改善点がないか確認し、改善等を行いながら、円滑な運用を図る</li> </ul>			
令和4年9年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>実際に使用して判明した問題点などを改善する</li> </ul>			<ul style="list-style-type: none"> <li>問題点や改善点がないか確認し、改善等を行いながら、円滑な運用を図る</li> </ul>			
令和5年度							
期待される効果(将来のビジョン)							
<ul style="list-style-type: none"> <li>学校現場における全児童生徒へのタブレットの導入や、リーディングDXスクール事業に先駆的に取り組んでいる中で、教育委員としてもICTの活用に取り組むことで、学校現場や保護者に対する理解を求めの一助になる。</li> <li>会議資料の作成、配布にかかる事務時間の短縮が図れる。</li> <li>教育委員と事務局、学校、教育委員会職員などの資料共有が安易になる。</li> </ul>							

武雄市デジタルトランスフォーメーション（DX）推進計画 アクションプラン（第1版）

No.		34		施策		3-3：AI・RPAの利用促進		
事業名	AI-OCRやRPAを活用した作業の自動化・省力化			担当課	税務課 デジタル政策課	基本方針	○	市民DX
							○	地域DX
							○	行政DX
取組の背景				事業概要				
<ul style="list-style-type: none"> <li>住民及び他機関から提出される紙媒体の申告書等を手作業で入力を行う業務が膨大にあることから、多くのコストと時間を費やしている。</li> <li>入力内容の確認、修正作業など職員の負担及び長時間勤務につながる要因となっている。</li> </ul>				<ul style="list-style-type: none"> <li>定例的な業務の自動化により、作業時間の軽減や効率化、人為的ミスの削減を図ることにより業務改善を促進する。これにより、本来、人でしか担えない相談業務等に注力することができ、きめ細かな市民サービスにつなげることができる。</li> </ul>				
実施内容								
年度	取組事項(KPI)				年次目標(KGI)			
令和1年 5 年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>他自治体の利用状況の把握</li> <li>実証実験の検討</li> </ul>				導入効果の把握・検討			
令和2年 6 年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>AI-OCR・RPA導入に向けた現行業務の整理</li> <li>対象業務の洗い出し</li> <li>実証実験を行う</li> <li>導入経費の次年度当初予算要求</li> </ul>				内部業務の整理及び見直し 対象業務の整理			
令和3年 7 年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>AI-OCR・RPAの導入・精度検証</li> <li>外部委託コストの削減・縮小</li> </ul>				職員の時間外勤務時間の縮減 10% 外部委託コストの削減・縮小 10%			
令和4年 8 年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>AI-OCRの利用促進</li> <li>AI-OCRの導入効果の検証</li> <li>対象業務の拡充</li> <li>外部委託コストの削減・縮小</li> <li>全職員向けにシステム研修を行う</li> </ul>				職員の時間外勤務時間の縮減 15% 外部委託コストの削減・縮小 20% 職員の研修受講率 80%以上			
令和5年 9 年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>対象業務の拡充</li> <li>外部委託コストの削減・縮小</li> <li>全職員向けにシステム研修を行う</li> </ul>				職員の時間外勤務時間の縮減 20% 外部委託コストの削減・縮小 40% 職員の研修受講率 90%以上			
期待される効果(将来のビジョン)								
定例的な業務の効率化・省力化を行うことで、職員がよりきめ細かな住民への対応を行うことができ、住民サービスの向上へつながる。								



武雄市デジタルトランスフォーメーション（DX）推進計画 アクションプラン（第1版）

No.		35		施策		3-3：AI・RPAの利用促進		
事業名	保育所入所選考における AIの活用			担当課	こども未来課	基本方針	○	市民DX
							○	地域DX
							○	行政DX
取組の背景				事業概要				
<ul style="list-style-type: none"> <li>・共働き世帯が増え保育所の入所希望が増加。</li> <li>・複雑な入所選考基準に基づいた優先順位付けやきょうだい同時入所など、様々な要望を踏まえた選考を行う必要がある。</li> <li>・一部の園に入所希望が偏っている。</li> </ul>				<ul style="list-style-type: none"> <li>・従来職員が手作業で行っていた保育所の入所選考業務において、AI入所選考システム(保育所入所マッチングサービス)を活用することで、迅速かつ公平な通知書の発送及び職員の負担軽減と事務の効率化を図る。</li> </ul>				
実施内容								
年度	取組事項(KPI)				年次目標(KGI)			
令和1年5年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・システムの導入のための情報収集や課題等の整理</li> <li>・対象となる補助金の調査</li> <li>・他市町の導入、活用実績の情報収集及び調査</li> </ul>				<ul style="list-style-type: none"> <li>・システム調査及び仕様整理</li> </ul>			
令和2年6年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・システムの導入のための情報収集や課題等の整理</li> <li>・課題点の整理</li> <li>・関係施設、保護者からの意見収集</li> <li>・システム仕様の検討</li> <li>・運用フローの策定</li> <li>・関係施設との調整</li> <li>・予算要求</li> </ul>				<ul style="list-style-type: none"> <li>・予算確保</li> <li>・システム導入準備</li> </ul>			
令和3年7年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・システムの選定</li> <li>・実証実験の実施</li> <li>・システム本格運用に向けて準備</li> <li>・課題の洗い出し及び解決検討</li> <li>・関係施設との意見交換や調整</li> </ul>				<ul style="list-style-type: none"> <li>・効果的な運用方法の検討</li> </ul>			
令和4年8年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・システム運用開始</li> <li>・アンケートなどによる市民意見の集約</li> </ul>				<ul style="list-style-type: none"> <li>・業務時間の削減、入所選考結果通知の早期発送</li> <li>・窓口対応時間数削減 前年度比10%</li> </ul>			
令和5年9年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アンケートなどによる市民意見の集約および意見反映</li> <li>・課題確認および改善点の把握</li> </ul>				<ul style="list-style-type: none"> <li>・課題の改善、対応</li> <li>・窓口対応時間数削減 前年度比10%</li> </ul>			
期待される効果(将来のビジョン)								
<ul style="list-style-type: none"> <li>・AIシステムによる、より公平・正確・迅速な入所選考につながり、市民の納得性が向上する。</li> <li>・市民への選考結果通知発送までの時間短縮につながる。</li> <li>・選考に要する業務時間の削減により、他の保育所等業務に時間を充てることができ、市民サービスの向上につながる。</li> <li>・業務負担軽減により職員のワーク・ライフ・バランスの向上につながる。</li> </ul>								

武雄市デジタルトランスフォーメーション（DX）推進計画 アクションプラン（第1版）

		No.	36	施策	3-4：デジタル人材育成と基盤強化		
事業名	デジタル人材の育成とセキュリティ強化			担当課	デジタル政策課	基本方針	市民DX
							地域DX
						○	行政DX
取組の背景				事業概要			
<p>・業務のデジタル化に積極的な職員がいる一方で、多くの職員・部署においては「そもそも便利なソフトウェア等を知らない」「便利なことはわかるが使えない」「部署の限られた人しか使えない」など、デジタル技術と業務を結び付けられる人材が不足している。現状としては、業務やサービスのデジタル化の進捗は職員個人のスキルに頼っており、組織としてデジタル活用に対する意識が不足している。</p> <p>・近年では、生成AI等の技術革新により私たちの生活は大きく変化している。この変化の中で、行政も新たな技術を活用し、サービスの質と効率を向上させることが求められているが、利便さを追求する一方で、個人情報の保護が重要な課題となっている。</p>				<p>・全ての階層の職員を対象としたデジタル化に関する共通研修を行い意識の醸成を図る。また、技術の習得支援に関する研修を行うことで、デジタル技術と実際の業務の橋渡しができる人材を育成する。</p> <p>・国が示すガイドラインを元に、武雄市セキュリティポリシーの改定を随時行い、原則、情報化推進員会議を通して全職員に向けて周知を行い、全職員がセキュリティを意識した業務の遂行を促進する。</p> <p>・新技術を取り入れたサービスの導入や新たな機器類の導入に際して、保守業者と連携して、機械的・技術的なセキュリティ検証を行い、必要となる場合は、速やかに対策を講じていく。</p>			
実施内容							
年度	取組事項(KPI)			年次目標(KGI)			
令和1年5年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市内にDX推進委員会を設置</li> <li>・情報化推進員会議を開催(デジタル活用、セキュリティ対策など)</li> <li>・全職員に対するJ-LIS主催のeラーニング研修(個人情報保護、情報セキュリティ)を実施</li> <li>・DX推進に関する支援を受ける目的で「地域活性化起業人(総務省)制度」を活用し、民間企業よりDXマネージャーを招聘(3年間計画)</li> <li>・新サービス等の導入に伴うセキュリティ検証(随時)</li> <li>・セキュリティポリシーの改定及び全職員に対する周知及び研修の開催</li> </ul>			<ul style="list-style-type: none"> <li>・DX推進委員会開催(4回)</li> <li>・情報化推進員会議開催(2回)</li> <li>・eラーニング研修開催(全職員実施1回)</li> <li>・セキュリティポリシーの改定(年1回)</li> </ul>			
令和2年6年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・DXマネージャーによる希望者を対象とした研修の実施</li> <li>・地域情報化アドバイザー制度を活用した研修の実施</li> <li>・全職員を対象にJ-LIS主催のeラーニング研修(内容は適宜決定)を実施</li> <li>・情報化推進員会議を開催(デジタル活用、セキュリティ対策など)</li> <li>・DX推進委員会の開催</li> <li>・新サービス等の導入に伴うセキュリティ検証(随時)</li> <li>・セキュリティポリシーの改定及び全職員に対する周知及び研修の開催</li> </ul>			<ul style="list-style-type: none"> <li>・DXマネージャー研修開催(2回)</li> <li>・全職員対象の研修開催(1回)</li> <li>・eラーニング研修開催(全職員実施1回)</li> <li>・情報化推進員会議開催(2回)</li> <li>・DX推進委員会開催(適時)</li> <li>・セキュリティポリシーの改定(年1回)</li> </ul>			
令和3年7年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・DXマネージャーによる希望者を対象とした研修の実施</li> <li>・地域情報化アドバイザー制度を活用した研修の実施</li> <li>・全職員を対象にJ-LIS主催のeラーニング研修(内容は適宜決定)を実施</li> <li>・情報化推進員会議を開催(デジタル活用、セキュリティ対策など)</li> <li>・DX推進委員会の開催</li> <li>・新サービス等の導入に伴うセキュリティ検証(随時)</li> <li>・セキュリティポリシーの改定及び全職員に対する周知及び研修の開催</li> </ul>			<ul style="list-style-type: none"> <li>・DXマネージャー研修開催(2回)</li> <li>・全職員対象の研修開催(1回)</li> <li>・eラーニング研修開催(全職員実施1回)</li> <li>・情報化推進員会議開催(2回)</li> <li>・DX推進委員会開催(適時)</li> <li>・セキュリティポリシーの改定(年1回)</li> </ul>			
令和4年8年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域情報化アドバイザー制度を活用した研修の実施</li> <li>・全職員を対象にJ-LIS主催のeラーニング研修(内容は適宜決定)を実施</li> <li>・情報化推進員会議を開催(デジタル活用、セキュリティ対策など)</li> <li>・DX推進委員会を開催</li> <li>・新サービス等の導入に伴うセキュリティ検証(随時)</li> <li>・セキュリティポリシーの改定及び全職員に対する周知及び研修の開催</li> </ul>			<ul style="list-style-type: none"> <li>・全職員対象の研修開催(1回)</li> <li>・eラーニング研修開催(全職員実施1回)</li> <li>・情報化推進員会議開催(2回)</li> <li>・DX推進委員会開催(適時)</li> <li>・セキュリティポリシーの改定(年1回)</li> </ul>			
令和5年9年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域情報化アドバイザー制度を活用した研修の実施</li> <li>・全職員を対象にJ-LIS主催のeラーニング研修(内容は適宜決定)を実施</li> <li>・情報化推進員会議を開催(デジタル活用、セキュリティ対策など)</li> <li>・DX推進委員会を開催</li> <li>・新サービス等の導入に伴うセキュリティ検証(随時)</li> <li>・セキュリティポリシーの改定及び全職員に対する周知及び研修の開催</li> <li>・セキュリティ面における課題を踏まえた次期ネットワーク及び機器更改の検討</li> </ul>			<ul style="list-style-type: none"> <li>・全職員対象の研修開催(1回)</li> <li>・eラーニング研修開催(全職員実施1回)</li> <li>・情報化推進員会議開催(2回)</li> <li>・DX推進委員会開催(適時)</li> <li>・セキュリティポリシーの改定(年1回)</li> </ul>			
期待される効果(将来のビジョン)							
<ul style="list-style-type: none"> <li>・新規採用職員や新任役職員を対象とした研修及び導入を計画するシステムに関する研修の実施により、デジタル化やセキュリティに関する全庁的な共通認識で業務効率化等を図ることができる。</li> <li>・人材育成の方向性についても、外部の有識者によるアドバイスを受けながらブラッシュアップが図られる。</li> <li>・様々な情報を取り扱う職員一人ひとりが、セキュリティに対する意識を持って、安全安心な行政運営を遂行できる。</li> <li>・機械的・技術的なセキュリティ対策を実施することで、安全な行政運営を実現できる。</li> </ul>							

## 用語解説

### 【AI】

Artificial Intelligenceの略。人工的な方法による学習、推論、判断等の知的な機能の実現及び人工的な方法により実現したそれら機能の活用に関する技術「人工知能」のこと。

### 【AI - OCR】

従来のOCR技術に加えてAIの技術を活用し、コンピュータ自らが機械学習することで紙文書に書かれた手書きの文字や印刷された文字の認識率を高めた高度な文字認識技術のこと。

### 【AIデマンド（オンデマンド）システム】

AIを活用した効率的な配車により、利用者予約に対し、リアルタイムに最適配車を行うシステム。

### 【CMS】

「Contents Management System：コンテンツ・マネジメント・システム」の略。Webサイトのコンテンツを構成するテキストや画像、デザイン・レイアウト情報（テンプレート）などを一元的に保存・管理するシステムのこと。

### 【DX】

Digital Transformation（デジタル・トランスフォーメーション）の略。企業がAI、IoT、ビッグデータなどのデジタル技術を用いて、業務フローの改善や新たなビジネスモデルの創出だけでなく、レガシーシステムからの脱却や企業風土の変革を実現させること。

### 【e-スポーツ】

Electronic Sports（エレクトリック・スポーツ）の略。ビデオゲームを使った対戦をスポーツ競技として捉える際の名称を指す。電子機器を使う娯楽や競技、スポーツなどのこと。

### 【GIS】

Geographic Information System（地理情報システム）の略。地理的位置を手がかりに、位置に関する情報を持ったデータ（空間データ）を総合的に管理・加工し、視覚的に表示し、高度な分析や迅速な判断を可能にする技術。

### 【ICT】

Information and Communication Technologyの略。ネットワーク通信による情報の共有が念頭に置かれた表現で、情報や通信に関連する技術の総称のこと。

### 【J - LIS】

Japan Agency for Local Authority Information Systems（地方公共団体情報システム機構）の略。

地方公共団体が共同して運営する組織として、住民基本台帳法、電子署名等に係る地方公共団体情報システム機構の認証業務に関する法律及び行政手続における特定の個人を識別するための番号の利用等に関する法律の規定による事務並びにその他の地方公共団体の情報システムに関する事務を地方公共団体に代わって行うとともに、地方公共団体に対してその情報システムに関する支援を行い、地方公共団体の行政事務の合理化及び住民の福祉の増進に寄与することを目的とする。

### 【KPI】

Key Performance Indicatorsの略で、「重要業績評価指標」と訳される。KPIは、目標達成に向かうプロセスが順調に進んでいるかどうかを点検するための指標。なお、KPIはあくまでも進行度合いを判定するための指標であるため、それ自体を目標とはせず、状況の変更によって内容を修正をしていくもの。

**【MaaS】**

Mobility as a Serviceの略。地域住民や旅行者一人一人のトリップ単位での移動ニーズに対応して、複数の公共交通やそれ以外の移動サービスを最適に組み合わせて検索・予約・決済等を一括で行うサービス。観光や医療等の目的地における交通以外のサービス等との連携により、移動の利便性向上や地域の課題解決にも資する重要な手段となる。

**【RPA】**

Robotic Process Automationの略。これまで人間が行ってきた定型的なパソコン操作をソフトウェアロボットにより自動化すること。

**【Web】**

World Wide Web(ワールドワイドウェブ)の略。直訳すると「世界規模のくもの巣」。インターネット上のさまざまな情報(テキスト・画像・動画など)の閲覧を可能にするシステムのこと。

**【アーカイブ】**

保存記録や公文書という意味をもつ英単語。コンピュータ分野においては、消してはいけないデータを長期保存するために、専用の保存領域に「安全にデータを保存すること」をいう。

**【情報アクセシビリティ】**

あらゆる利用者が、パソコンやWebページなどの情報資源を不自由なく利用できるような「利用のしやすさ」のこと。

**【オープンデータ】**

国、地方公共団体及び事業者が保有する官民データのうち、誰もがインターネット等を通じて容易に利用できるよう、営利、非営利を問わず二次利用可能なルールが適用され、かつ機械判読に適し、無償で利用できる形により公開されたデータのこと。